

TR-IT-0218

音声翻訳統合実験システムのための 音声認識用日本語文法

A Japanese Grammar for Integrated
Speech Translation System (Version 1)

竹澤 寿幸

Toshiyuki TAKEZAWA

1997. 5

内容梗概

音声翻訳統合実験システム (バージョン 1) のための音声認識用日本語文法を検討し、試作した。部分木を単位とする日本語文法の考え方にしたがって試作済みの対話音声認識用日本語文法の体系をもとに、音声翻訳統合実験システム (バージョン 1) 試作のために ATR 音声言語データベースから選んだホテル予約の 9 会話が扱えるような日本語文法を試作した。その概要を述べる。

ATR 音声翻訳通信研究所

ATR Interpreting Telecommunications Research Laboratories

© 株式会社 エイ・ティ・アール音声翻訳通信研究所

© 1997 by ATR Interpreting Telecommunications Research Laboratories

目次

1	まえがき	1
1.1	対象会話と試作した文法の種類	1
1.2	背景・経緯と補足説明	2
2	機能概要	3
2.1	機能概要	3
2.2	機能構成	3
3	句構造規則	5
3.1	文	5
3.2	述語	5
3.2.1	活用	6
3.2.1.1	動詞の活用	6
3.2.1.2	形容詞の活用	7
3.2.2	述語と後置詞句との共起	7
3.2.2.1	必須格の係受け	7
3.2.2.2	任意格の係受け	8
3.2.3	助動詞・補助動詞の承接	8
3.2.3.1	ヴォイスの述語	8
3.2.3.2	アスペクトの述語	9
3.2.3.3	ムード1の述語	10
3.2.3.4	否定の述語	10
3.2.3.5	テンスの述語	11
3.2.3.6	ムード2の述語	11
3.2.3.7	意志の述語	11
3.2.3.8	丁寧の述語	11
3.2.3.9	「のです」の述語	12
3.2.3.10	終助詞が接続する述語	12
3.3	後置詞句	12
3.3.1	必須格	12
3.3.2	任意格	13
3.3.3	助詞の接続	13
3.4	副詞句・副詞節	13
3.4.1	副詞の分類	13
3.4.2	活用語の連用形	14
3.4.3	節に接続助詞が接続するもの	14
3.5	連体修飾句・連体修飾節	14
3.5.1	連体詞	14
3.5.2	連体助詞が接続するもの	14

3.5.3	活用語の連体形で終わる節	14
3.6	氏名／数・金額／電話番号・クレジットカード番号／月日・時分／綴り	15
3.6.1	氏名	15
3.6.2	数・金額	15
3.6.3	電話番号・クレジットカード番号	16
3.6.4	月日・時分	16
3.7	複合語	16
3.7.1	数量詞	16
3.7.2	複合名詞	17
4	語彙	19
4.1	名詞	19
4.1.1	固有名詞	19
4.1.2	サ変名詞	19
4.1.3	形容名詞	19
4.1.4	普通名詞	20
4.1.5	代名詞	20
4.2	動詞	21
4.2.1	五段動詞	21
4.2.2	一段動詞	21
4.2.3	サ変動詞「する」	21
4.3	形容詞	22
4.4	副詞	22
4.5	連体詞	22
4.6	接続詞	22
4.7	感動詞	23
4.8	助動詞・補助動詞	23
4.8.1	ヴォイスの助動詞	23
4.8.2	アスペクトの補助動詞	23
4.8.3	ムード1の助動詞・補助動詞	24
4.8.4	否定の助動詞	24
4.8.5	テンスの助動詞	24
4.8.6	ムード2の助動詞・補助動詞	24
4.8.7	断定の助動詞	24
4.8.8	丁寧の助動詞	25
4.8.9	意志の助動詞	25
4.8.10	サ変名詞につく補助動詞	25
4.9	助詞	25
4.9.1	格助詞	25
4.9.2	係助詞	25
4.9.3	副助詞	26
4.9.4	連体助詞	26
4.9.5	並立助詞	26
4.9.6	準体助詞	26
4.9.7	接続助詞	26
4.9.8	終助詞	26
4.10	接辞	26
4.10.1	接尾辞	26

目次	iii
5 タイプ	29
6 不適格文の処理	31
謝辞	31
参考文献	33
A 対象会話	35
A.1 会話(1)	35
A.2 会話(2)	36
A.3 会話(3)	36
A.4 会話(4)	37
A.5 会話(5)	37
A.6 会話(6)	38
A.7 会話(7)	38
A.8 会話(8)	39
A.9 会話(9)	40
B 音韻表記	41
C 単語の属性	43
D 語彙セット	45
D.1 語彙一覧	45
D.2 活用語尾一覧	67

第 1 章

まえがき

1.1 対象会話と試作した文法の種類

いよいよ音声翻訳統合実験システムの試作を開始した。そのバージョン 1 を開発するにあたり、ATR 音声言語データベース (SLDB) [浦谷 94b, 竹澤 94] からホテル予約の 9 会話を接続実験の評価対象に選んだ。対象会話を表 1.1 に示す¹。その日本語形態素数を表 1.2 に、その英語形態素数を表 1.3 に示す。さらに、その会話を書き起こした日本語テキストを付録 A に掲載する。

表 1.1: 対象会話

選定会話	簡易名称	非通訳者音声	話題	備考
TAS22001	会話 (1)	客側	ホテルの部屋の予約	(SG) 会話 A と同じ
TAS32002	会話 (2)	客側	ホテルの部屋の予約	(SG)
TAS12008	会話 (3)	客側	ホテルの部屋の予約	(SG)
TAS12010	会話 (4)	客側	ホテルの部屋の予約	(SG)
TAS23001	会話 (5)	ホテル側	ホテルの部屋の予約	(SH)
TAS33001	会話 (6)	ホテル側	ホテルの部屋の予約	(SH)
TAS13005	会話 (7)	ホテル側	ホテルの部屋の予約	(SH)
TAS13009	会話 (8)	ホテル側	ホテルの部屋の予約	(SH)
TAS33011	会話 (9)	ホテル側	ホテルの部屋の予約	(SH)

表 1.2: 日本語形態素数

選定会話	非通訳者延べ語数	非通訳者異なり語数	両話者延べ語数	両話者異なり語数	
TAS22001	153		66	387	118
TAS32002	146	SG	57	433	112
TAS12008	121		65	298	108
TAS12010	103		49	329	112
TAS23001	282	M	92	462	120
TAS33001	289		102	485	130
TAS13005	134	SH	61	220	82
TAS13009	262		81	462	121
TAS33011	331		112	597	153
9 会話総合	1821		256	3673	356

¹表 1.1 の備考にある「会話 A」とはテクニカルレポート TR-IT-0139, TR-IT-0198 の日本語文法で対象としている旅行 12 会話 (A ~ L) の「会話 A」を指している。

表 1.3: 英語形態素数

選定会話	通訳者延べ語数	通訳者異なり語数	両話者延べ語数	両話者異なり語数
TAS22001	116	74	308	130
TAS32002	221	105	319	133
TAS12008	102	63	237	109
TAS12010	83	52	251	118
TAS23001	276	122	400	155
TAS33001	131	74	407	156
TAS13005	143	77	207	99
TAS13009	236	112	381	156
TAS33011	269	132	434	172
9 会話総合	1577	342	2944	462

実験を円滑に進めるために、いくつかのサイズの文法とした。SG サイズはホテル客側の 4 会話で 300 語程度、SH サイズはホテル窓口側の 5 会話で 300 語程度、M サイズは非通訳者音声 9 会話 500 語程度、L サイズは両側の音声 9 会話 1000 語程度を目安に試作を行なった。

なお、以前の文法との互換性を保つために、

- 前終端記号より上位の構文規則
- 前終端記号と語の関係を表す語彙規則

に分けて、文法の開発・保守作業を行なった。

1.2 背景・経緯と補足説明

これまでに部分木を単位とする対話音声認識のための日本語文法を試作し [竹沢 95a, 竹沢 95b, 竹澤 95c, 竹澤 96a]、前終端記号のバイグラムを併用することにより、性能向上を図ることができた [竹澤 96c]。この研究に利用している日本語文法と、それに完全に一致した構文木データが 62 会話 (評価実験用 12 会話 + 訓練ないしオープンテスト用 50 会話) 存在する。この文法体系では音声認識過程で正解を得やすくするために貢献する制約を記述しているため、句構造レベルの非終端記号も細分化されている。一方、音声言語データベース [浦谷 94b, 竹澤 94] の一環として整備している日本語構文解析情報 (JTREE) [田代 94] では、一般的な句構造のラベルを付与している。

そこで、JTREE と組み合わせて各種実験を行なうことを目的として、音声言語統合処理のための音声認識用日本語文法 [竹澤 96b] を試作した。こちらの体系は JTREE と同様の一般的な句構造を採用している。つまり、句構造レベルの非終端記号は細分化されていない。

これら二つの利用可能な文法とその概要説明を表 1.4 に示す。

表 1.4: 利用可能な文法の概要

名前	対象会話	テクニカルレポート	備考
部分木を単位とする日本語文法	旅行 12 会話 (A ~ L)	TR-IT-0139	文献 [竹澤 96c] の実験で活用した。
	旅行 50 会話	TR-IT-0168	
音声言語統合処理用日本語文法	旅行 12 会話 (A ~ L)	TR-IT-0198	JTREE と相性が良い。

部分木を単位とする日本語文法 [竹沢 95a, 竹沢 95b, 竹澤 95c, 竹澤 96a] の体系は JTREE と組み合わせて利用することが難しいが、文献 [竹澤 96c] の実験で活用した実績があり、音声認識に役立つことがわかっている [竹澤 96d]。音声言語統合処理用日本語文法 [竹澤 96b] の体系は JTREE と組み合わせて利用しやすいが、テストセットに対するパープレキシティ評価はした [田中 97] もの、まだ音声認識の実験に利用したことがない。そこで、今回は部分木を単位とする日本語文法の体系を採用することにした。

第 2 章

機能概要

2.1 機能概要

音声認識部における統語解析規則の主な機能は、次の音素を予測したり容認し難い音素列を排除したりして音声認識の精度を高めることである。その結果として発話文の統語構造が得られるが、それは、次の言語解析部への入力となり、そこで依存構造解析と意味解析が施される。

音声認識の結果は、ポーズ単位ごとに部分木構造として表現される。各部分木には音声認識スコアが付与されている。また、一般的には、一つのポーズ単位に 1 個以上の部分木が出力される。

もしも発話文が文法的に適格な文であれば、文全体を覆う構文木が少なくとも一つは出力される。しかし、不適格な文であれば、文全体を覆う構文木は出力されず、部分木の集まりとして出力される。これは、言語解析部で一つにまとめられる。

統語解析規則は、タイプ付きの句構造規則と語彙規則からなる。句構造規則に付加されたタイプは、句構造規則の娘節点のうち統語的または意味的なヘッドがどれであるかによって分類したもので、言語解析部では、このタイプ情報を用いて係り受け関係を計算し、依存構造を出力する。

2.2 機能構成

統語解析規則は、文脈自由文法の枠組で書かれている。そのうち、句構造規則は次のような形式で書かれている。

$$((\langle X \rangle \langle \text{---} \rangle (\langle Y \rangle \dots \langle Z \rangle)) N)$$

$\langle X \rangle \langle Y \rangle \dots \langle Z \rangle$ は非終端記号、 N はタイプを表す数字である。

また、語彙規則は次のような形式で書かれている。

$$(\langle P \rangle \langle \text{---} \rangle (o = i =))$$

$\langle P \rangle$ は品詞 (あるいは、終端記号の一步手前の記号であるという意味で前終端記号とも言う) を表す。 $(o = i =)$ は終端記号すなわち単語そのもので、音韻表記が与えられている。

以下、「ニューワシントンホテルです」という文を解析する規則を例に説明する (なお、タイプ情報は、「タイプ」の章で説明するので、ここでは省略する)。

```

1 (<start> <--> (<sent>))
2 (<sent> <--> (<cl1>))
3 (<cl1> <--> (<vp>))
4 (<vp> <--> (<verb-cop-syusi>))
5 (<verb-cop-syusi> <--> (<np> <aux-cop-desu-syusi>))
6 (<np> <--> (<n-proper>))
7 (<aux-cop-desu-syusi> <--> (<auxstem-desu> <vinfl-spe-su>))
8 (<n-proper> <--> (ny uu w a sh i = t o = h o t e r u))
9 (<auxstem-desu> <--> (d e))
10 (<vinfl-spe-su> <--> (s u))

```

規則1 は、LR パーザからスタートシンボルとして指定されている。双方向の矢印<--> は、ここでは左辺のシンボルが右辺のシンボルに展開されるという意味を持っている。この右辺の `sent` から構文規則の本体が始まる。

規則2 は、非終端記号 `sent` が `cl1` という非終端記号に展開されることを表している。

規則3 は、非終端記号 `cl1` が、非終端記号 `vp` に展開されることを表している。

規則4 は、非終端記号 `vp` が、非終端記号 `verb-cop-syusi` に展開されることを表している。

規則5 は、非終端記号 `verb-cop-syusi` が、`np` と `aux-cop-desu-syusi` の二つの非終端記号に展開されることを表している。

規則6 は、非終端記号 `np` が、非終端記号 `n-proper` に展開されることを表している。

規則7 は、非終端記号 `aux-cop-desu-syusi` が `auxstem-desu` と `vinfl-spe-su` という二つの非終端記号に展開されることを表している。

規則8 は、非終端記号 `n-proper` が、`ny uu w a sh i = t o = h o t e r u` という終端記号に展開されることを表している。終端記号は `<>` で囲まれない。

規則9 は、非終端記号 `auxstem-desu` が、`d e` という終端記号に展開されることを表している。

規則10 は、非終端記号 `vinfl-sp-su` が、`s u` という終端記号に展開されることを表している。

LR パーザで「ニューワシントンホテルです」を解析した結果は、次のような木構造で表示される。

```

<sent>
|--<cl1>
  |--<vp>
    |--<verb-cop-syusi>
      |--<np>
        | |--<n-proper>
        |   |--nyuwashi=to=hoteru
      |--<aux-cop-desu-syusi>
        |--<auxstem-desu>
          | |--de
        |--<vinfl-spe-su>
          |--su

```

第 3 章

句構造規則

3.1 文

日本語の文の骨格をなすのは、述語と、それにかかるいくつかの後置詞句、および副詞句である。このような、述語・後置詞句・副詞句からなる構成素を「動詞句」(vp)とし、この動詞句がいったんは「節」(cl)になるとしている。

例文 1 ニューワシントンホテルです。

```
(<sent> <--> (<cl>))  
(<cl> <--> (<cl1>))  
(<cl1> <--> (vp>))
```

[注意 1] 以下の句構造規則では、タイプ情報を省略する。

[注意 2] <cl1> の数字は、文頭に感動詞や接続詞などがついていないものを指す。感動詞や接続詞がつくと <cl2> となる。このようにしたのは、感動詞や接続詞には短音節の語が多く、再帰を許す規則にすると音声認識で誤認識されやすいからである。

文のうち、終助詞で終わるものは特別に区別している。これは、音声認識実験で、終助詞で終わる節に接続助詞が接続するような誤認識がしばしば出現したので、それを防ぐためである。

例文 2 トラベラーズチェックは使えますか。

```
(<cl1> <--> (<vp-sfp>))
```

以上のような文に、接続詞 (conj) や文副詞 (adv-sent) がかかることがある。

例文 3 じゃ、この一万七千円の部屋にします。

例文 4 あいにく、トリプルルームはございません。

```
(<cl2> <--> (<conj> <cl1>))  
(<cl2> <--> (<adv-sent> <cl1>))
```

ほかに、感動詞単独の文、感動詞に節が後続する文がある。

例文 5 ありがとうございます。

例文 6 はい、別館の和室がございます。

```
(<cl> <--> (<interj-post>))  
(<cl2> <--> (<interj-pre> <cl1>))
```

[注意] interj-post は文末に現れうる感動詞である。これに対して「はい」「いいえ」のように文頭にしか現れないものは interj-pre としている。

3.2 述語

動詞・形容詞・形容名詞にいくつかの助動詞・補助動詞が接続するものや、名詞に助動詞の「だ・です」が接続するものがある。これらの述語と後置詞句との共起関係が詳細に記述されている。

3.2.1 活用

3.2.1.1 動詞の活用

動詞は活用の型にしたがって分類している。五段活用と一段活用は語幹と活用語尾を語彙項目として登録し、サ変活用は活用形を語彙登録している。また、学校文法のいわゆるサ変動詞は、サ変名詞と補助動詞の連接として扱っている。

(1) 五段活用

例文7 着か(ない)／着こ(う)／着き(ます)／着い(た)／着く／着け(ば)／着け

```
<verb-5-mizen1/ga-ni> <--> (<vstem-5-k/ga-ni> <vinfl-5-ka>))
<verb-5-mizen2/ga-ni> <--> (<vstem-5-k/ga-ni> <vinfl-5-ko>))
<verb-5-renyo/ga-ni> <--> (<vstem-5-k/ga-ni> <vinfl-5-ki>))
<verb-5-renyo-q/ga-ni> <--> (<vstem-5-k/ga-ni> <vinfl-5-i>))
<verb-5-syusi/ga-ni> <--> (<vstem-5-k/ga-ni> <vinfl-5-ku>))
<verb-5-rentai/ga-ni> <--> (<vstem-5-k/ga-ni> <vinfl-5-ku>))
<verb-5-katei/ga-ni> <--> (<vstem-5-k/ga-ni> <vinfl-5-ke>))
<verb-5-meirei/ga-ni> <--> (<vstem-5-k/ga-ni> <vinfl-5-ke>))
```

```
<vstem-5-k/ga-ni> <--> (ts u)
<vinfl-5-ka> <--> (k a)
<vinfl-5-ko> <--> (k o)
<vinfl-5-ki> <--> (k i)
<vinfl-5-i> <--> (i)
<vinfl-5-ku> <--> (k u)
<vinfl-5-ke> <--> (k e)
```

(2) 一段活用

例文8 考え(ない)／考え(よう)／考え(ます)／考える／考えれ(ば)／考えよ／考えろ

```
<verb-1-mizen1/ga-o> <--> (<vstem-1dan/ga-o>))
<verb-1-mizen2/ga-o> <--> (<vstem-1dan/ga-o> <vinfl-1-yo>))
<verb-1-renyo/ga-o> <--> (<vstem-1dan/ga-o>))
<verb-1-syusi/ga-o> <--> (<vstem-1dan/ga-o> <vinfl-1-ru>))
<verb-1-rentai/ga-o> <--> (<vstem-1dan/ga-o> <vinfl-1-ru>))
<verb-1-katei/ga-o> <--> (<vstem-1dan/ga-o> <vinfl-1-re>))
<verb-1-meirei/ga-o> <--> (<vstem-1dan/ga-o> <vinfl-1-yo>))
<verb-1-meirei/ga-o> <--> (<vstem-1dan/ga-o> <vinfl-1-ro>))
```

```
<vstem-1dan/ga-o> <--> (k a = g a e)
<vinfl-1-yo> <--> (y o)
<vinfl-1-ru> <--> (r u)
<vinfl-1-re> <--> (r e)
<vinfl-1-ro> <--> (r o)
```

(3) サ変活用

例文9 し(ない)／しよ(う)／さ(れる)／し(ます)／する／すれ(ば)／しろ

```
<verb-sahen-mizen1/ga-ni> <--> (sh i)
<verb-sahen-mizen2/ga-ni> <--> (sh i y o)
<verb-sahen-mizen3/ga-ni> <--> (s a)
<verb-sahen-renyo/ga-ni> <--> (sh i)
<verb-sahen-syusi/ga-ni> <--> (s u r u)
<verb-sahen-rentai/ga-ni> <--> (s u r u)
<verb-sahen-katei/ga-ni> <--> (s u r e)
<verb-sahen-meirei/ga-ni> <--> (sh i r o)
```

3.2.1.2 形容詞の活用

例文 10 安く(ない) / 安かる(う) / 安く / 安かつ(た) / 安い / 安けれ(ば)

```
(<adj-mizen1/ga> <--> (<adjstem/ga> <vinfl-adj-ku>))
(<adj-mizen2/ga> <--> (<adjstem/ga> <vinfl-adj-karo>))
(<adj-renyo/ga> <--> (<adjstem/ga> <vinfl-adj-ku>))
(<adj-renyo-q/ga> <--> (<adjstem/ga> <vinfl-adj-kaq>))
(<adj-syusi/ga> <--> (<adjstem/ga> <vinfl-adj-i>))
(<adj-rentai/ga> <--> (<adjstem/ga> <vinfl-adj-i>))
(<adj-katei/ga> <--> (<adjstem/ga> <vinfl-adj-kere>))
```

```
(<adjstem/ga> <--> (y a s u))
(<vinfl-adj-karo> <--> (k a r o))
(<vinfl-adj-ku> <--> (k u))
(<vinfl-adj-kaq> <--> (k a q))
(<vinfl-adj-u> <--> (u))
(<vinfl-adj-i> <--> (i))
(<vinfl-adj-kere> <--> (k e r e))
```

3.2.2 述語と後置詞句との共起

3.2.2.1 必須格の係受け

動詞・形容詞・形容名詞は必須格パターンにしたがって細分類し、後置詞句との共起制約を詳細に記述している。また、名詞に「だ・です」が接続する述語には、「が格」のみが共起するようになっている。

例文 11 シングルルームが満室となっております。

動詞「なる」は、必須格として「が格」と「と格」を取る。そこで、次のように分類する。

```
(<vstem-5-r/ga-to> <--> (n a))
```

例文の「満室と」と「シングルルームが」の二つの後置詞句が、「と格」と「が格」を消費する。これを次のように記述する。

```
(<verb-renyo/ga> <--> (<pp-to> <verb-renyo/ga-to>))
(<verb-renyo/> <--> (<pp-ga> <verb-renyo/ga>))
```

格を消費された動詞からは、スラッシュを削除する。

```
(<verb-renyo> <--> (<verb-renyo/>))
```

この後は、「まし」「た」という二つの助動詞が接続することになる。

```
(<vaux-masu-renyo> <--> (<verb-renyo> <aux-masu-renyo>))
(<vaux-tai-syusi> <--> (<vaux-masu-renyo> <aux-ta>))
```

サ変動詞については、サ変名詞を格パターンにしたがって細分類し、サ変名詞と後置詞句の共起制約を次のように記述した。

例文 12 予約を確認させていただきます。

```
(<n-sahen/ga-o> <--> (k a k u n i =))
(<n-sahen/ga> <--> (<pp-o> <n-sahen/ga-o>))
(<n-sahen> <--> (<n-sahen/ga>))
```

この後、「さ」「せ」「ていただき」「ます」などの助詞・助動詞が接続する。形容詞や形容名詞も同様に必須格パターンにしたがって分類している。

例文 13 到着が遅くなりそうなので、ギャランティにさせていただきたいんですけども。

```

(<adjstem/ga> <--> (o s o))
(<adj-renyo/ga> <--> (<adjstem/ga> <vinfl-adj-ku>))
(<adj-rentai/> <--> (<pp-ga> <adj-rentai/ga>))
(<adj-rentai> <--> (<adj-rentai/>))

```

例文 14 観光に便利なホテルです。

```

(<n-adj/ga-ni> <--> (b e = r i))
(<n-adj/ga> <--> (<pp-ni> <n-adj/ga-ni>))
(<n-adj> <--> (<n-adj/ga>))
(<adj-rentai> <--> (<adj-rentai/ga>))

```

名詞に「だ・です」がついた述語は、が格と共起するとしている。

例文 15 お名前がジョン・フィリップス様ですね。

```

(<verb-cop-syusi> <--> (<np> <aux-cop-desu-syusi>))
(<verb-cop-syusi> <--> (<pp-ga> <verb-cop-syusi>))

```

3.2.2.2 任意格の係受け

任意格は、動詞の必須格を消費しない。そこで、任意格には <pp> というカテゴリを与え、次のように記述した。

例文 16 八月十日から十二日まで泊まります。

```

(<verb-5-renyo/ga-ni> <--> (<pp> <verb-5-renyo/ga-ni>))

```

副詞句、数量詞、時を表す表現なども、それぞれ <advp> <n-quant> <n-time> というカテゴリを与え、任意格と同じような扱いにしている。

例文 17 別途十一ドルをちょうだいいたします。

例文 18 和食、洋食共に千二百円いただきます。

例文 19 八月十日の朝ご出発ですね。

```

(<n-sahen/ga-o> <--> (<advp> <n-sahen/ga-o>))
(<verb-5-renyo/ga-o> <--> (<n-quant> <verb-5-renyo/ga-o>))
(<n-sahen/ga> <--> (<n-time> <n-sahen/ga>))

```

3.2.3 助動詞・補助動詞の承接

動詞・形容詞・形容動詞、また名詞述語の後にいくつかの助動詞・補助動詞が接続することがあるが、その相互承接関係には次のような階層がある。

動詞 > ヴォイス > アスペクト > ムード1 > 否定 > テンス > ムード2

ヴォイスは、使役や受身などを表す「せる・させる」「れる・られる」である。アスペクトは、状態・継続・完了などの動作様相を表す「ている」や、受給・待遇関係などを表す「てもらう」「ていただく」などである。いわゆる「テ形補助動詞」がだいたいこの位置に現れる。ムードは、願望を表す「たい」である。そのほかに、当為を表す表現である「～なければならない」や「～ばよろしい」などもこの位置に来る。否定は助動詞「ない」である。テンスは、過去時制や完了を表す助動詞の「た」である。

3.2.3.1 ヴォイスの述語

ヴォイスは使役・受身などの態を表し、「せる・させる」「れる・られる」がある。使役の助動詞が接続する述語と受身の助動詞が接続する述語を分け、それぞれに次のような規則を設ける¹。

¹述語句の承接規則は膨大である。本文中の規則はその一部を抜き出したものである。

(1) 使役の述語

例文 20 待たせる

(<vaux-caus-mizen1> <--> (<verb-5-mizen1> <aux-caus-seru-mizen1>))
 (<vaux-caus-mizen2> <--> (<verb-5-mizen1> <aux-caus-seru-mizen2>))
 (<vaux-caus-renyo> <--> (<verb-5-mizen1> <aux-caus-seru-renyo>))
 (<vaux-caus-syusi> <--> (<verb-5-mizen1> <aux-caus-seru-syusi>))
 (<vaux-caus-rentai> <--> (<verb-5-mizen1> <aux-caus-seru-rentai>))
 (<vaux-caus-katei> <--> (<verb-5-mizen1> <aux-caus-seru-katei>))

(<aux-caus-seru-mizen1> <--> (<auxstem-caus-seru>))
 (<aux-caus-seru-mizen2> <--> (<auxstem-caus-seru> <vinfl-1-yo>))
 (<aux-caus-seru-renyo> <--> (<auxstem-caus-seru>))
 (<aux-caus-seru-syusi> <--> (<auxstem-caus-seru> <vinfl-1-ru>))
 (<aux-caus-seru-rentai> <--> (<auxstem-caus-seru> <vinfl-1-ru>))
 (<aux-caus-seru-katei> <--> (<auxstem-caus-seru> <vinfl-1-re>))

(<auxstem-caus-seru> <--> (s e))

(2) 受身の述語

例文 21 待たれる

(<vaux-deac-mizen1> <--> (<verb-5-mizen1> <aux-deac-reru-mizen1>))
 (<vaux-deac-renyo> <--> (<verb-5-mizen1> <aux-deac-reru-renyo>))
 (<vaux-deac-syusi> <--> (<verb-5-mizen1> <aux-deac-reru-syusi>))
 (<vaux-deac-rentai> <--> (<verb-5-mizen1> <aux-deac-reru-rentai>))
 (<vaux-deac-katei> <--> (<verb-5-mizen1> <aux-deac-reru-katei>))

(<aux-deac-reru-mizen1> <--> (<auxstem-deac-reru>))
 (<aux-deac-reru-mizen2> <--> (<auxstem-deac-reru> <vinfl-1-yo>))
 (<aux-deac-reru-renyo> <--> (<auxstem-deac-reru>))
 (<aux-deac-reru-syusi> <--> (<auxstem-deac-reru> <vinfl-1-ru>))
 (<aux-deac-reru-rentai> <--> (<auxstem-deac-reru> <vinfl-1-ru>))
 (<aux-deac-reru-katei> <--> (<auxstem-deac-reru> <vinfl-1-re>))

(<auxstem-deac-reru> <--> (r e))

3.2.3.2 アスペクトの述語

アスペクトは状態・継続・完了などの動作様相を表し、「ている」「である」などがある。この階層には、アスペクトの補助動詞だけでなく、動詞の「て形」に接続するすべての補助動詞が入る。受給や待遇関係を表す補助動詞「てもらう」「てあげる」「ていただく」「てくださる」などである。

例文 22 待っている／待たせている

(<vaux-te-mizen1> <--> (<verb-1-renyo> <aux-te-mizen1>))
 (<vaux-te-mizen2> <--> (<verb-5-renyo-i> <aux-te-mizen2>))
 (<vaux-te-renyo> <--> (<verb-5-renyo-n> <aux-te-renyo>))
 (<vaux-te-syusi> <--> (<verb-5-renyo-q> <aux-de-syusi>))
 (<vaux-te-rentai> <--> (<verb-sahen-renyo> <aux-te-rentai>))
 (<vaux-te-katei> <--> (<vaux-caus-renyo> <aux-te-katei>))
 (<vaux-te-meirei> <--> (<vaux-deac-renyo> <aux-te-meirei>))

```

(<aux-te-mizen1> <--> (<auxstem-te-iru>))
(<aux-te-mizen2> <--> (<auxstem-te-iru> <vinfl-1-yo>))
(<aux-te-renyo> <--> (<auxstem-te-iru>))
(<aux-te-syusi> <--> (<auxstem-te-iru> <vinfl-1-ru>))
(<aux-te-rentai> <--> (<auxstem-te-iru> <vinfl-1-ru>))
(<aux-te-katei> <--> (<auxstem-te-iru> <vinfl-1-re>))

(<auxstem-te-iru> <--> (t e i))
(<auxstem-de-iru> <--> (d e i))

```

3.2.3.3 ムード1の述語

ムード1は、願望・当為・義務・禁止など話者の意図を表し、「たい」「なければならない」などがある。

例文 23 待ちたい／待たせたい／待ってもらいたい

```

(<vaux-optt-mizen1> <--> (<verb-renyo> <aux-optt-mizen1>))
(<vaux-optt-mizen2> <--> (<verb-renyo> <aux-optt-mizen2>))
(<vaux-optt-renyo> <--> (<vaux-caus-renyo> <aux-optt-renyo>))
(<vaux-optt-renyo-q> <--> (<vaux-caus-renyo> <aux-optt-renyo-q>))
(<vaux-optt-syusi> <--> (<vaux-deac-renyo> <aux-optt-syusi>))
(<vaux-optt-rentai> <--> (<vaux-deac-renyo> <aux-optt-rentai>))
(<vaux-optt-katei> <--> (<vaux-te-renyo> <aux-optt-katei>))

(<aux-optt-mizen1> <--> (<auxstem-optt> <vinfl-adj-ku>))
(<aux-optt-mizen2> <--> (<auxstem-optt> <vinfl-adj-karo>))
(<aux-optt-renyo> <--> (<auxstem-optt> <vinfl-adj-ku>))
(<aux-optt-renyo-q> <--> (<auxstem-optt> <vinfl-adj-kaq>))
(<aux-optt-syusi> <--> (<auxstem-optt> <vinfl-adj-i>))
(<aux-optt-rentai> <--> (<auxstem-optt> <vinfl-adj-i>))
(<aux-optt-katei> <--> (<auxstem-optt> <vinfl-adj-kere>))

(<auxstem-optt> <--> (t a))

```

3.2.3.4 否定の述語

否定の助動詞「ない」が接続する述語である。

例文 24 待たない／待たせない／待っていない／待ちたくない

```

(<vaux-negt-mizen2> <--> (<verb-mizen1> <aux-negt-mizen2>))
(<vaux-negt-renyo> <--> (<vaux-caus-mizen1> <aux-negt-renyo>))
(<vaux-negt-renyo-q> <--> (<vaux-caus-mizen1> <aux-negt-renyo-q>))
(<vaux-negt-syusi> <--> (<vaux-deac-mizen1> <aux-negt-syusi>))
(<vaux-negt-rentai> <--> (<vaux-te-mizen1> <aux-negt-rentai>))
(<vaux-negt-katei> <--> (<vaux-optt-mizen1> <aux-negt-katei>))

(<aux-negt-mizen2> <--> (<auxstem-negt> <vinfl-adj-karo>))
(<aux-negt-renyo> <--> (<auxstem-negt> <vinfl-adj-ku>))
(<aux-negt-renyo-q> <--> (<auxstem-negt> <vinfl-adj-kaq>))
(<aux-negt-syusi> <--> (<auxstem-negt> <vinfl-adj-i>))
(<aux-negt-rentai> <--> (<auxstem-negt> <vinfl-adj-i>))
(<aux-negt-katei> <--> (<auxstem-negt> <vinfl-adj-kere>))

(<auxstem-negt> <--> (n a))

```

3.2.3.5 テンスの述語

過去時制や完了の様相を表す助動詞「た」が接続する述語である。

例文 25 待った／待たせた／待っていた／待ちたかった／待たなかった

```
(<vaux-ta1-syusi> <--> (<verb-5-renyo-q> <aux-ta>))
(<vaux-ta1-syusi> <--> (<vaux-caus-renyo> <aux-ta>))
(<vaux-ta1-syusi> <--> (<vaux-te-renyo-q> <aux-ta>))
(<vaux-ta1-syusi> <--> (<vaux-optt-renyo> <aux-ta>))
(<vaux-ta1-syusi> <--> (<vaux-negt-renyo-q> <aux-ta>))
```

```
(<aux-ta> <--> (t a))
```

3.2.3.6 ムード2の述語

ムード2は概言・比況など、話者の心的様相を表し、本文法では「ようだ」がある。

例文 26 待つように／待たせるように／待っているようだ／待ちたいようだ／待たないような／待ったような

```
(<vaux-evid-renyo> <--> (<verb-syusi> <aux-evid-renyo>))
(<vaux-evid-renyo> <--> (<vaux-caus-syusi> <aux-evid-renyo>))
(<vaux-evid-syusi> <--> (<vaux-te-syusi> <aux-evid-syusi>))
(<vaux-evid-syusi> <--> (<vaux-optt-syusi> <aux-evid-syusi>))
(<vaux-evid-rentai> <--> (<vaux-negt-syusi> <aux-evid-rentai>))
(<vaux-evid-rentai> <--> (<vaux-ta-syusi> <aux-evid-rentai>))
```

```
(<aux-evid-renyo> <--> (<auxstem-evid-da> <vinfl-da-ni>))
(<aux-evid-syusi> <--> (<auxstem-evid-da> <vinfl-da-da>))
(<aux-evid-rentai> <--> (<auxstem-evid-da> <vinfl-da-na>))
```

```
(<auxstem-evid-da> <--> (y ou))
```

3.2.3.7 意志の述語

意志を表す助動詞「う」は特殊な承接関係を示すので、特別な規則を設けている。

例文 27 待とう／待たせよう／待ってもらおう

```
(<vaux-intn-syusi> <--> (<verb-mizen2> <aux-intn>))
(<vaux-intn-syusi> <--> (<vaux-caus-seru-mizen2> <aux-intn>))
(<vaux-intn-syusi> <--> (<vaux-caus-saseru-mizen2> <aux-intn>))
(<vaux-intn-syusi> <--> (<vaux-te-mizen2> <aux-intn>))
```

```
(<aux-intn> <--> (u))
```

3.2.3.8 丁寧の述語

丁寧さを表す助動詞「ます」も特殊な承接関係を示す。

例文 28 待ちません／待たせました／待っています

```
(<vaux-masu-mizen1> <--> (<verb-renyo> <aux-masu-mizen1>))
(<vaux-masu-renyo> <--> (<vaux-caus-renyo> <aux-masu-renyo>))
(<vaux-masu-syusi> <--> (<vaux-te-renyo> <aux-masu-syusi>))
```

```
(<aux-masu-mizen1> <--> (<auxstem-masu> <vinfl-spe-se>))
(<aux-masu-renyo> <--> (<auxstem-masu> <vinfl-spe-shi>))
(<aux-masu-syusi> <--> (<auxstem-masu> <vinfl-spe-su>))
```

```
(<auxstem-masu> <--> (m a) ("ま" "ます" "助動詞" "語幹"))
```

3.2.3.9 「のです」の述語

準体助詞「の」 + 断定の助動詞「だ」「です」が接続するものは、次のような規則で処理する。

例文 29 待つのです

```
(<vaux-noda-syusi> <--> (<vp-no> <aux-cop-desu-syusi>))
(<vp-no> <--> (<vp-rentai> <p-jun>))
(<aux-cop-desu-syusi> <--> (<auxstem-desu> <vinfl-spe-su>))

(<p-jun> <--> (n o))
(<auxstem-desu> <--> (d e))
```

3.2.3.10 終助詞が接続する述語

最後に、終助詞が接続する述語のために、次のような規則を設ける。

例文 30 待つか/待たせるか/待っていただきたいのですが

```
(<vaux-sfp> <--> (<verb-syusi> <aux-sfp>))
(<vaux-sfp> <--> (<vaux-caus-syusi> <aux-sfp>))
      ⋮
(<vaux-sfp> <--> (<vaux-noda-syusi> <aux-sfp>))
(<vaux-sfp> <--> (<vaux-intn-syusi> <aux-sfp>))
```

3.3 後置詞句

格助詞や係助詞や副助詞が名詞句や名詞節について、動詞の補語となるものである。必須格と任意格を区別している。

助詞は音節数が少なく、非常に誤認識されやすいものである。そこで、助詞については、それぞれの語に異なったカテゴリーを与え、各種名詞との接続関係を厳密に制限している。

3.3.1 必須格

述語の分類の項で述べたように、会話データにおいて動詞・形容詞・形容動詞と共起しやすい傾向のある後置詞句をその動詞・形容詞・形容動詞の必須格としている。そして、動詞・形容詞・形容動詞との共起関係を記述するために、それぞれの格助詞に対応した特別なカテゴリーを与えている。

例文 31 シングルルームが満室となっております。

```
(<pp-ga> <--> (<n-hutu> <p-kaku-ga>))
```

例文 32 クレジットカードの番号を教えてください。

```
(<pp-o> <--> (<n-hutu> <p-kaku-o>))
```

例文 33 ギャランティにしていきたいんですけども。

```
(<pp-ni> <--> (<n-hutu> <p-kaku-ni>))
```

例文 34 それで結構です。

```
(<pp-de> <--> (<pro> <p-kaku-de>))
```

3.3.2 任意格

必須格以外の後置詞句を、すべて任意格として扱っている。名詞句や名詞節に任意格助詞や係助詞、副助詞が後続するものである。

例文 35 八月の十日から十二日まで滞在したいんですが。

```
(<pp> <--> (<pp-kara>))
(<pp-kara> <--> (<n-time> <p-kaku-kara>)) (<pp> <--> (<pp-made>))
(<pp-made> <--> (<n-time> <p-kaku-made>))
```

例文 36 当日のご到着時間はお分かりになりますでしょうか。

```
(<pp> <--> (<pp-wa>))
(<pp-wa> <--> (<n-hutu> <p-kakari-wa>))
```

例文 37 なにかご質問などございましたら、ご遠慮なくお電話ください。

```
(<pp> <--> (<pp-nado>))
(<pp-nado> <--> (<n-sahen> <p-fuku-nado>))
```

3.3.3 助詞の接続

二つ以上の助詞が接続する場合、その接続の仕方には制約がある。例えば、係助詞の「は」は格助詞の「が」「を」には接続しない、格助詞の「が」「を」は副助詞の「など」には接続しうが「しか」には接続できない、等々。このような制約を、本文法では次のように記述している。

例文 38 たぶん、六時ぐらいになると思います。

```
(<pp-gurai> <--> (<n-time> <p-kaku-gurai>))
(<pp-ni> <--> (<pp-gurai> <p-kaku-ni>))
(<pp> <--> (<pp-ni>))
```

3.4 副詞句・副詞節

副詞句 (advp) は述語を修飾するもの、副詞節 (adv-cl) は節を修飾するものである。副詞、活用語の連用形、節に接続助詞が接続して連用修飾句になるものを扱っている。

3.4.1 副詞の分類

副詞は、普通の副詞、助動詞の「です」が後続しうるもの、文全体を修飾する文副詞に分類している。

adv	しばらく、ちょうど
adv-desu	そう、もちろん
adv-sent	あいにくでございますが

例文 39 しばらくお待ちください。

```
(<adj-rentai/ga-o> <--> (<advp> <n-sahen/ga-o>))
(<advp> <--> (<advp>))
(<adv> <--> (sh i b a r a k u))
```

例文 40 はい、そうです。

```
(<vaux-adv-syusi> <--> (<adv-desu> <aux-cop-desu-syusi>))
(<adv-desu> <--> (s o u))
```

例文 41 あいにくでございますが、シングルルームが満室となっております。

```
(<cl> <--> (<adv-sent> <cl>))
(<adv-sent> <--> (a i n i k u d e g o z a i m a s u g a))
```

3.4.2 活用語の連用形

活用語の連用形の用法には、述語を修飾する副詞句の場合と、いわゆる「連用形並列」の場合がある。本文法では、形容動詞の連用形が述語を修飾する場合と、名詞述語の連用形並列のみを実装している。

例文 42 ファーストネームがジョン様で、ラストネームがフィリップス様ですね。

```
(<adv-cl> <--> (<verb-cop-renyo>))
(<verb-cop-renyo> <--> (<np> <aux-cop-da-renyo>))
(<advp> <--> (<n-adj> <aux-cop-da-renyo>))
```

3.4.3 節に接続助詞が接続するもの

本文法では、次の例のみを扱っている。

例文 43 ニューワシントンホテルをご利用いただきましてありがとうございます。

```
(<adv-cl> <--> (<vp-renyo> <p-conj-renyo-te>))
(<p-conj-renyo-te> <--> (t e))
```

3.5 連体修飾句・連体修飾節

連体修飾句・連体修飾節ともに mod-n というカテゴリーを与えている。連体修飾句は、連体詞と、名詞句に連体助詞が接続するものがある。連体修飾節は、活用語の連体形で終わるものである。

3.5.1 連体詞

通常の連体詞の他に、「またの」なども連体詞として処理している。

例文 44 その値段の差額というのは料理に差が出るのですか。

例文 45 またのお越しをお待ちしております。

```
(<mod-n> <--> (<rentai>))
(<rentai> <--> (s o n o))
(<rentai> <--> (m a t a n o))
```

3.5.2 連体助詞が接続するもの

名詞に接続して連体修飾句を作るものを、連体助詞として一括して扱っている。助詞の「の」の他に、「という」のような複合表現もこの中に含めている。このうち、「の」は、誤認識されやすいので p-rentai-no というカテゴリーを与えている。

例文 46 担当のメアリ・フィリップスです。

例文 47 その値段の差額というのは料理に差が出るわけですか。

```
(<mod-n> <--> (<np> <p-rentai-no>))
(<mod-n> <--> (<np> <p-rentai>))
(<p-rentai-no> <--> (n o))
(<p-rentai> <--> (t o i u))
```

3.5.3 活用語の連体形で終わる節

活用語の連体形で、名詞を修飾するものを扱っている。

例文 48 パスポートの提示をお願いすることになりますけれども。

```
(<mod-n> <--> (<vp-rentai>))
(<vp-rentai> <--> (<verb-rentai>))
```

3.6 氏名／数・金額／電話番号・クレジットカード番号／月日・時分／綴り

3.6.1 氏名

氏名は、国や民族により命名の仕方や順序が違う。日本や韓国、中国、ハンガリーなどでは苗字が先、名前が後であるが、欧米のほとんどの国では名前が先、苗字が後である。また、エチオピアのように、父親の名前を苗字の代わりに用いるところもある。これらのすべてに矛盾のないようにカテゴリを定め、規則を作るのは難しい。

本文法では、苗字と名前を区別し、さらに前に来るか後に来るかで区別している。

myoji-first	日本人などの苗字	鈴木
namae-last	日本人などの名前	和子
namae-first	欧米人などの名前	メアリ
myoji-last	欧米人などの苗字	フィリップス

例文 49 鈴木和子

例文 50 メアリ・フィリップス

```
(<name> <--> (<myoji-first> <namae-last>))
(<name> <--> (<namae-first> <myoji-last>))
```

名前の後につく敬称は接尾語として登録し、苗字または氏名に接続している。

例文 51 鈴木和子様ですね

```
(<name-honor> <--> (<name> <name-suf>))
(<name-suf> <--> (s a m a))
```

3.6.2 数・金額

数は、桁ごとにまとめ、それを2進木の右枝分かれ構造で接続するようにしている。

例文 52 八万

```
(<n-num-keta-man> <--> (<n-num-hachi> <num-suf-man>))
(<num-suf-man> <--> (m a =))
(<n-num-hachi> <--> (h a c h i))
```

例文 53 四千

```
(<n-num-keta-sen> <--> (<n-num-yon> <num-suf-sen>))
(<num-suf-sen> <--> (s e =))
```

例文 54 六百

```
(<n-num-keta-hyaku> <--> (<n-num-roq> <num-suf-pyaku>))
(<num-suf-pyaku> <--> (p y a k u))
```

例文 55 七十

```
(<n-num-keta-zyuu> <--> (<n-num-nana> <num-suf-zyuu>))
(<num-suf-zyuu> <--> (z y u u))
```

例文 56 八万四千六百七十五

```
(<n-num-man> <--> (<n-num-keta-man> <n-num-sen>)) ; 八万四千
(<n-num-sen> <--> (<n-num-keta-sen> <n-num-hyaku>)) ; 四千六百
(<n-num-hyaku> <--> (<n-num-keta-hyaku> <n-num-zyuu>)) ; 六百七十
(<n-num-zyuu> <--> (<n-num-keta-zyuu> <n-num-1>)) ; 七十五
(<n-num-1> <--> (<n-num-go>))
```

3.6.3 電話番号・クレジットカード番号

電話番号やクレジットカード番号は、0から9までの数詞を登録して、規則により生成している。

例文 57 零六、三二八、六七五四です。

例文 58 カードの番号は、五二七九、三九二零、六七八零です。

```

(<n-num-bango> <--> (<num-ex-2> <num-ex-3> <num-ex-4>))
(<n-num-bango> <--> (<num-ex-4> <num-ex-4> <num-ex-4>))
(<num-ex-2> <--> (<n-num-ex> <n-num-ex>))
(<num-ex-3> <--> (<n-num-ex> <n-num-ex> <n-num-ex>))
(<num-ex-4> <--> (<n-num-ex> <n-num-ex> <n-num-ex> <n-num-ex>))

(<n-num-ex> <--> (z e r o))
(<n-num-ex> <--> (i c h i))
(<n-num-ex> <--> (n i))
(<n-num-ex> <--> (s a =))
(<n-num-ex> <--> (y o =))
(<n-num-ex> <--> (g o))
(<n-num-ex> <--> (r o k u))
(<n-num-ex> <--> (n a n a))
(<n-num-ex> <--> (h a c h i))
(<n-num-ex> <--> (k y u u))

```

3.6.4 月日・時分

月日や時分を表す名詞は数が限られているので、すべて一語登録している。

n-month	月を表す名詞	一月、二月、…、十二月
n-day	日を表す名詞	一日、二日、…、三十一日
n-week	週日を表す名詞	日曜日、月曜日、…、土曜日
n-hour	時刻を表す名詞	一時、二時、…、二十四時
n-minute	分を表す名詞	一分、二分、…、五十九分

例文 59 十月五日土曜日

```

(<n-date> <--> (<n-month> <n-day>))
(<n-date> <--> (<n-date> <n-week>))

```

例文 60 十時三十分

```

(<n-time> <--> (<n-hour> <n-minute>))

```

例文 61 午前十時

```

(<n-time> <--> (<tag-slot> <n-hour>))
(<tag-slot> <--> (g o z e =))

```

3.7 複合語

本文法では、数詞と助数詞から数量詞を作る規則と、若干の複合名詞を実装している。

3.7.1 数量詞

数詞と助数詞の接続には、数詞の末尾の読みにしたがって制約がある。本文法では、実験用の対話に現れる数量詞についてのみ、次のように数詞と助数詞の接続制約を規則化した。

例文 62 二泊

```

(<n-quant> <--> (<n-num-ni> <suffix-num-def-yon>))
(<suffix-num-def-yon> <--> (h a k u))

```

例文 63 十パーセント

```
(<n-quant> <--> (<n-num-zyuq> <suffix-num-def-p>))
(<num-suf-zyuq> <--> (zy u q))
(<suffix-num-def-yo> <--> (p aa s e = t o))
```

例文 64 一人

```
(<n-quant> <--> (<n-num-hito> <suffix-num-ri>))
(<n-num-hito> <--> (h i t o))
(<suffix-num-q> <--> (r i))
```

3.7.2 複合名詞

複合語の規則が一般の句構造規則に悪い影響を及ぼすのを防ぐためには、複合語の規則と一般の句構造規則を分離しなければならない。実際、「部分木に基づく音声認識用日本語文法」の改良版では、分離していた。しかし、本文法が対象としている実験用の対話では「キャンセル料」だけだったので、そうはせずに、次のように規則化している。

例文 65 キャンセル料

```
(<n-hutu> <--> (<n-sahen/ga-o> <suffix-sahen-hutu>))
(<n-sahen/ga-o> <--> (ky a = s e r u))
(<suffix-sahen-hutu> <--> (ry ou))
```

[注意] <suffix-sahen-hutu> は、サ変名詞に接続して普通名詞を作る接尾辞である。

第 4 章

語彙

4.1 名詞

4.1.1 固有名詞

固有名詞は、氏名に関するものとそれ以外の固有名詞の 2 種類のグループに分類している。

(1) 氏名

氏名は、苗字と名前を区別している。日本語のように苗字が先、名前が後に来るものと、欧米人のように名前が先、苗字が後に来るものがある。

myoji-first	日本人などの苗字	鈴木
namae-last	日本人などの名前	和子
namae-first	欧米人などの名前	メアリ
myoji-last	欧米人などの苗字	フィリップス

(<myoji-first> <--> (s u z u k i))
(<namae-last> <--> (k a z u k o))
(<namae-first> <--> (m e a r i))
(<myoji-last> <--> (f i r i q p u s u))

(2) 氏名以外の固有名詞

n-proper	固有名詞	ニューワシントンホテル
----------	------	-------------

(<n-proper> <--> (n y u u w a s h i = t o = h o t e r u))

4.1.2 サ変名詞

学校文法でサ変動詞の語幹としているものである。

n-sahen	サ変名詞	予約、キャンセル
---------	------	----------

(<n-sahen/ga-o> <--> (y o y a k u))

4.1.3 形容名詞

学校文法で形容動詞の語幹としているものである。

n-adj	形容名詞	結構
-------	------	----

(<n-adj> <--> (k e q k o u))

4.1.4 普通名詞

普通名詞のうち、時を表す名詞は、助詞を伴わずに述語を修飾することが多い。そこで、通常の普通名詞と時を表す名詞は別の扱いにしている。

n-hutu	普通名詞	ホテル、シングルルーム
n-time	時を表す名詞	今

(<n-hutu> <--> (h o t e r u))

(<n-time> <--> (i m a))

月日や時刻を表す普通名詞は、数が限られているので、数詞と接尾辞に分割せずに、全体を一語登録している。

n-month	月を表す名詞	一月、二月、…、十二月
n-day	日を表す名詞	一日、二日、…、三十一日
n-week	週日を表す名詞	日曜日、月曜日、…、土曜日
n-hour	時刻を表す名詞	一時、二時、…、二十四時
n-minute	分を表す名詞	一分、二分、…、五十九分

(<n-month> <--> (i c h i g a t s u))

(<n-day> <--> (t s u i t a c h i))

(<n-week> <--> (g e t s u y o u b i))

(<n-hour> <--> (i c h i z i))

(<n-minute> <--> (i q p u =))

数詞は、後に続く助数詞が何であるかによって、音形がさまざまに変わる。例えば、「一」は、「号」が後続すると「イチ」、「泊」が後続すると「イッ」、「人(り)」が後続すると「ヒト」というように。そこで、1から9までの数字には、音形によって異なるカテゴリを与えている。

(<n-num-ichi> <--> (i c h i))

(<n-num-iq> <--> (i q))

(<n-num-hito> <--> (h i t o))

(<n-num-ni> <--> (n i))

(<n-num-huta> <--> (h u t a))

(<n-num-hutu> <--> (h u t u))

(<n-num-san> <--> (s a =))

(<n-num-shi> <--> (s h i))

(<n-num-yo> <--> (y o))

(<n-num-yon> <--> (y o =))

(<n-num-go> <--> (g o))

(<n-num-roku> <--> (r o k u))

(<n-num-roq> <--> (r o q))

(<n-num-shichi> <--> (s h i c h i))

(<n-num-nana> <--> (n a n a))

(<n-num-hachi> <--> (h a c h i))

(<n-num-haq> <--> (h a q))

(<n-num-kyuu> <--> (k y u u))

(<n-num-ku> <--> (k u))

4.1.5 代名詞

pro	代名詞	これ、どれ
-----	-----	-------

(<pro> <--> (k o r e))

「何」は、「ナニ」と「ナン」で、次のように使い分けられる。

- 例文 66 ナニがいいですか。
 例文 67 *ナンがいいですか。
 例文 68 *これはナニですか。
 例文 69 これはナンですか。
 例文 70 *ナニ人参加しますか。
 例文 71 ナン人参加しますか。

そこで、「ナン」には、pro-num という特別なカテゴリを与えている。“-num” は、「ナン人」のように数詞の代わりに用いられるからである。

pro-num	何(ナン)
---------	-------

(<pro-num> <--> (n a =))

4.2 動詞

本動詞は、活用型により、五段動詞、一段動詞、サ変動詞に分けている。サ変動詞では「する」を扱っている。「予約する」のようないわゆるサ変動詞は、サ変名詞に補助動詞の「する」が後続したものとして扱っている。また、必須格パターンをスラッシュの後に記述している。

4.2.1 五段動詞

五段活用する動詞は、否定の助動詞「ない」(nai)を後続させた時の、「あ」(a)の直前の子音により分類している。「歩かない」(aru k anai)は‘k’型である。同様に、「待たない」(ma t anai)は‘r’型である。語幹と活用語尾とは別に語彙登録している。

vstem-5-*/x	五段動詞の語幹	‘*’は「ない」が後続する時の「あ」の直前の子音である	‘x’は必須格パターンである	聞く、待つ、思う
vinfl-5-*	五段動詞の活用語尾	‘*’は、活用語尾の音形を表す		

(<vstem-5-k/ga> <--> (k i))
 (<vinfl-5-ka> <--> (k a))
 (<vinfl-5-ko> <--> (k o))
 (<vinfl-5-ki> <--> (k i))
 (<vinfl-5-i> <--> (i))
 (<vinfl-5-ku> <--> (k u))
 (<vinfl-5-ke> <--> (k e))

4.2.2 一段動詞

上一段活用、下一段活用するものは、語幹として「い」「え」までを扱っている。「い」または「え」以降の活用は、上一段、下一段ともに同じなので、両方とも一段活用動詞として扱っている。

vstem-1dan/x	一段動詞	教える
--------------	------	-----

(<vstem-1dan/ga-ni-o> <--> (o sh i e))
 (<vinfl-1-yo> <--> (y o))
 (<vinfl-1-ru> <--> (r u))
 (<vinfl-1-re> <--> (r e))
 (<vinfl-1-ro> <--> (r o))

4.2.3 サ変動詞「する」

動詞は、ほとんどのものを語幹と活用語尾に分けて扱っているが、サ変動詞の「する」は、活用した形を語彙登録している。

(<verb-sahen-mizen1/ga-ni> <--> (sh i))
 (<verb-sahen-mizen2/ga-ni> <--> (sh i y o))
 (<verb-sahen-mizen3/ga-ni> <--> (s a))
 (<verb-sahen-renyo/ga-ni> <--> (sh i))
 (<verb-sahen-syusi/ga-ni> <--> (s u r u))
 (<verb-sahen-rentai/ga-ni> <--> (s u r u))
 (<verb-sahen-katei/ga-ni> <--> (s u r e))
 (<verb-sahen-meirei/ga-ni> <--> (sh i r o))

4.3 形容詞

動詞と同様、必須格パターンをスラッシュの後に記述している。

adjstem/x	形容詞の語幹	安い、よろしい
vinfl-adj-*	形容詞の活用語尾	‘*’は活用語尾の音形を表す。

(<adjstem/ga-ni> <--> (y a s u))
 (<vinfl-adj-ku> <--> (k u))
 (<vinfl-adj-karo> <--> (k a r o))
 (<vinfl-adj-ku> <--> (k u))
 (<vinfl-adj-kaq> <--> (k a q))
 (<vinfl-adj-i> <--> (i))
 (<vinfl-adj-kere> <--> (k e r e))

4.4 副詞

副詞は、普通の副詞、助動詞の「です」が後続しうるもの、文全体を修飾する文副詞に分類している。

adv	助詞を伴わずに単独で使われることが多い副詞	しばらく、どうも
adv-desu	助動詞の「です」を伴う副詞	そう、どう
adv-sent	文全体を修飾する副詞	あいにく

(<adv> <--> (sh i b a r a k u))
 (<adv-desu> <--> (s o u))
 (<adv-sent> <--> (a i n i k u))

4.5 連体詞

「この」のような通常の連体詞の他に、「またの」のような複合的な表現も連体詞として扱っている。また、「当ホテル」の「当」のように、本来は接頭辞であるが、音声言語データベースの日本語形態素解析で接頭辞と認めていないものは、連体詞としている。

rentai	連体詞	この、またの
--------	-----	--------

(<rentai> <--> (k o n o))
 (<rentai> <--> (m a t a n o))

4.6 接続詞

「じゃあ」のような通常の接続詞の他に、「それでは」のような複合表現も接続詞として扱っている。

conj	接続詞	じゃあ、それでは
------	-----	----------

(<conj> <--> (z y a))
 (<conj> <--> (s o r e d e w a))

4.7 感動詞

感動詞はそれだけで1文を構成するとしている。通常の感動詞の他に、会話で頻繁に用いられる応答表現も感動詞としている。文頭にしか用いられない感動詞と文末にも用いられる感動詞を区別している。

interj-pre	文頭に用いられる感動詞	はい、いいえ
interj-post	文末に用いられる感動詞	ありがとうございました

(<interj-pre> <--> (h a i))

(<interj-post> <--> (a r i g a t o u g o z a i m a s h i t a))

4.8 助動詞・補助動詞

動詞に後接する助動詞・補助動詞には一定の承接関係があり、それぞれの助動詞・補助動詞はこの承接関係の中で役割と位置が決まっている。このような、一定の役割・位置にしたがって、助動詞・補助動詞を分類している。

4.8.1 ヴォイスの助動詞

使役を表す「せる・させる」と、受身を表す「れる・られる」である。「せる」と「れる」は五段動詞に後接し、「させる」「られる」は一段動詞に後接するので、区別している。語幹を語彙登録し、活用語尾は一段活用動詞の活用語尾と同じである。

auxstem-caus-seru	五段動詞につく使役の助動詞	せる
auxstem-caus-saseru	一段動詞につく使役の助動詞	させる
auxstem-deac-reru	五段動詞につく受身の助動詞	れる
auxstem-deac-rareru	一段動詞につく受身の助動詞	られる

(<auxstem-caus-seru> <--> (s e))

(<auxstem-caus-saseru> <--> (s a s e))

(<auxstem-deac-reru> <--> (r e))

(<auxstem-deac-rareru> <--> (r a r e))

4.8.2 アスペクトの補助動詞

状態・開始・継続・完了など、動作の様相を表すさまざまな補助動詞を扱っている。どれも「動詞＋て・で」に後接するので、この「て・で」を接続助詞として分割することはせずに、補助動詞の一部として、全体を一語登録している。

現在、「ている」「ておる」を登録しているが、活用の仕方や他の語との接続の仕方が異なるので、それぞれに別のカテゴリを与えている。

auxstem-te-iru	ている
----------------	-----

(<auxstem-te-iru> <--> (t e i))

auxstem-te-oru	ておる
----------------	-----

(<auxstem-te-oru> <--> (t e o))

また、授受や待遇を表す補助動詞も同じ承接関係を持っているので、ここで扱っている。五段活用のもの、一段活用のもの、形容詞型活用のものがある。

auxstem-te-1	一段活用の補助動詞	てもらえ
--------------	-----------	------

(<auxstem-te-1> <--> (t e m o r a e))

auxstem-te-5-*	五段活用の補助動詞	ていただく
auxstem-te-adj	形容詞型活用の補助動詞	て欲しい

(<auxstem-te-5-k> <--> (t e i t a d a))

(<auxstem-te-adj> <--> (t e h o s h i))

4.8.3 ムード1の助動詞・補助動詞

願望や当為などの助動詞・補助動詞を扱っている。

auxstem-optt	願望の助動詞	たい
--------------	--------	----

(<auxstem-optt> <--> (t a))

4.8.4 否定の助動詞

否定を表す「ない」を扱っている。

auxstem-negt	否定の助動詞	ない
--------------	--------	----

(<auxstem-negt> <--> (n a))

4.8.5 テンスの助動詞

過去・完了を表す「た」「だ」を扱っている。

aux-ta	過去・完了の助動詞	た
--------	-----------	---

(<aux-ta> <--> (t a))

4.8.6 ムード2の助動詞・補助動詞

比況を表す助動詞「ようだ」を扱っている。

auxstem-evid-da	だ型活用	ようだ
-----------------	------	-----

(<auxstem-evid-da> <--> (y o u))

4.8.7 断定の助動詞

名詞に後接して断定を表す「だ」「です」を扱っている。「だ」は活用した形を語彙登録し、「です」は語幹と活用語尾に分けている。

aux-cop-da-*	断定の助動詞「だ」	‘*’は活用形
auxstem-desu	断定の助動詞「です」	

(<aux-cop-da-mizen2> <--> (d a r o))

(<aux-cop-da-renyo-de> <--> (d e))

(<aux-cop-da-renyo-ni> <--> (n i))

(<aux-cop-da-renyo-q> <--> (d a q))

(<aux-cop-da-syusi> <--> (d a))

(<aux-cop-da-rentai> <--> (n a))

(<aux-cop-da-katei> <--> (n a r a))

(<auxstem-desu> <--> (d e))

4.8.8 丁寧の助動詞

丁寧さを表す「ます」は階層関係から言えば、アスペクトの補助動詞の後にくる。語幹と活用語尾に分けて

auxstem-masu	丁寧さを表す助動詞	ます
--------------	-----------	----

(<auxstem-masu> <--> (m a))

4.8.9 意志の助動詞

意志を表す助動詞「う」は無変化なので、終止形を語彙登録している。

aux-intn	意志を表す助動詞	う
----------	----------	---

(<aux-intn> <--> (u))

4.8.10 サ変名詞につく補助動詞

サ変名詞に後続する補助動詞のうち、「する」は活用形を語彙登録し、それ以外の補助動詞は活用型によって分類している。

aux-suru-*	「する」の活用形	
auxstem-sahen-5-*	五段活用の補助動詞	なさる、くださる
auxstem-sahen-1	一段活用の補助動詞	できる

(<aux-suru-si> <--> (sh i))
 (<aux-suru-siyo> <--> (sh i y o))
 (<aux-suru-sa> <--> (s a))
 (<aux-suru-suru> <--> (s u r u))
 (<aux-suru-suru> <--> (s u r e))
 (<aux-suru-siro> <--> (sh i r o))

(<auxstem-sahen-5-r> <--> (n a s a))
 (<auxstem-sahen-1> <--> (d e k i))

4.9 助詞

助詞は音節数が少なく、非常に誤認識されやすいものである。そこで、格助詞、係り助詞、副助詞には、それぞれの語に異なったカテゴリを与え、接続関係を厳密に規定している。

4.9.1 格助詞

名詞について格関係を表す助詞。

p-kaku-ga	が
p-kaku-o	を
p-kaku-ni	に
p-kaku-de	で
p-kaku-to	と
p-kaku-kara	から
p-kaku-made	まで

4.9.2 係助詞

p-kakari-wa	は
-------------	---

4.9.3 副助詞

名詞などについて意味を限定する助詞。

p-fuku-kurai	くらい
p-fuku-ka	か

4.9.4 連体助詞

所有・帰属を表す「の」

p-rentai	の
----------	---

4.9.5 並立助詞

並列句を作る「と」

p-para	と
--------	---

4.9.6 準体助詞

節について名詞化する働きを持つ助詞。現在は、「…のです」「…んです」の形で使われるもののみ、規則化している。

p-jun	の、ん
-------	-----

4.9.7 接続助詞

節について副詞句・副詞節をつくる助詞。

p-conj-renyo-te	て
-----------------	---

4.9.8 終助詞

文の最後について述語句の一部となるので、カテゴリ名は助動詞と同じタイプにしている。

また、本来は接続助詞であるけれども、会話ではしばしば文末に用いられるものがある。それも終助詞に含めている。

aux-sfp	か、が、ね、けれども
---------	------------

4.10 接辞

接頭辞と接尾辞については、音声言語データベースの日本語形態素解析で採用するものが決まっている。

本文法では、接尾辞として、氏名の敬称、数字の桁名と金額の貨幣単位、その他若干のものを登録している。

4.10.1 接尾辞

(1) 氏名の敬称

(<suffix-sama> <--> (s a m a))

(2) 数字の桁名

(<num-suf-zyuu> <--> (zy uu))
(<num-suf-hyaku> <--> (hy a k u))
(<num-suf-byaku> <--> (by a k u))
(<num-suf-hyaku> <--> (py a k u))
(<num-suf-sen> <--> (s e =))
(<num-suf-zen> <--> (z e =))
(<num-suf-man> <--> (m a =))

(3) 貨幣単位

(<num-suf-money> <--> (e =))

(4) 名詞について普通名詞を作る接尾辞

(<suffix-sahen-hutu> <--> (ry ou)) ; キャンセル料

(6) 数詞について数量詞を作る接尾辞

(<suffix-num-def-yon> <--> (h a k u))
(<suffix-num-def-p> <--> (p aa s e = t o))
(<suffix-num-ri> <--> (r i))
(<suffix-num-ka> <--> (k a))

第 5 章

タイプ

音声認識用日本語文法の句構造規則には、言語解析部で依存構造に変換するための情報が付加されている。それは、句構造規則の娘節点のうち統語的または意味的なヘッドがどれであることを示す情報で、次のような書式によって、規則のタイプを付与すればよい。

((<節> <--> (<動詞>)) 0)
 ((<文> <--> (<節> <句点>)) 1)
 ((<動詞> <--> (<本動詞> <語尾>)) 3)
 ((<本動詞> <--> (<接頭辞> <本動詞>)) 4)
 ((<姓名> <--> (<人名> <中黒> <人名>)) 5)

一番左にあって<, > で囲まれているものが規則の左辺の要素である。それ以外の<, > で囲まれているものが規則の右辺の要素である。最後の数字が依存構造へ変換する際のタイプである。依存構造を作成するためのタイプ一覧とその定義を示す。

タイプ	説明
type 0	句構造規則の右辺の要素の数が 1 個の場合。 右辺の情報を伝播する。
type 1	句構造規則の右辺の要素の数が 2 個の場合。 右側の要素が統語上のヘッドとなる場合、 左側の語を右側の語の娘要素とし、右側の語の情報を伝播する。
type 2	句構造規則の右辺の要素の数が 2 個の場合。 左側の要素が統語上のヘッドとなる場合、 右側の語を左側の語の娘要素とし、左側の語の情報を伝播する。
type 3	句構造規則の右辺の要素の数が 2 個の場合。 二つの語の間に親子関係が存在しないが、意味的な中心は左側の語である場合、 二つの語を一つのノードに併合し、左側の語の情報を伝播する。
type 4	句構造規則の右辺の要素の数が 2 個の場合。 二つの語の間に親子関係が存在しないが、意味的な中心は右側の語である場合、 二つの語を一つのノードに併合し、右側の語の情報を伝播する。
type 5	句構造規則の右辺の要素の数が 3 個以上の場合。 3 個以上の要素の間に親子関係が存在しないが、意味的な中心は一番右側の語である場合、 3 個以上の語を一つのノードに併合し、一番右側の語の情報を伝播する。

なお、一応、形式的に定義してあるが、日本語の場合、type 2 を使う必要はまずない。

次の文を例に、音声認識用日本語文法の規則、音声認識部からの出力、言語解析部でタイプ情報を使って依存構造に変換した結果を示す。

例文 72 ニューワシントンホテルです。

タイプ付き音声認識用日本語文法

```

1 (<start> <--> (<sent>))
2 ((<sent> <--> (<cli>)) 0)
3 ((<cli> <--> (<vp>)) 0)
4 ((<vp> <--> (<verb-cop-syusi>)) 0)
5 ((<verb-cop-syusi> <--> (<np> <aux-cop-desu-syusi>)) 1)
6 ((<np> <--> (<n-proper>)) 0)
7 ((<aux-cop-desu-syusi> <--> (<auxstem-desu> <vinfl-spe-su>)) 3)
8 (<n-proper> <--> (ny uu w a sh i = t o = h o t e r u))
9 (<auxstem-desu> <--> (d e))
10 (<vinfl-spe-su> <--> (s u))

```

音声認識部からの出力

```

(<sent>
  (<cli>
    (<vp>
      (<verb-cop-syusi>
        (<np>
          (<n-proper> nyuuwashi=to=hoteru))
        (<aux-cop-desu-syusi>
          (<auxstem-desu> de)
          (<vinfl-spe-su> su))))))

```

依存構造

```

((見出し で#す)
 (カテゴリ <auxstem-desu>)
 (引数
  ((見出し ニューワシントンホテル)
   (カテゴリ <n-hutu>))))

```

第 6 章

不適格文の処理

実験用の対話に現れる発話のうち、ホテルの予約の際に確認のために予約項目を読み上げる、いわゆる箇条発話は、現在のところは特に規則を与えることはしないで、部分木として出力する。

例文 73 ジョン・フィリップス様、十月二十五日火曜日から、二十九日土曜日、四泊の予定ということでしょうか。

例文 73 ではジョン・フィリップス様、あした十月二十八日、金曜日、ツイン一万七千円のお部屋をご用意いたします。

将来は、ドメイン知識などを応用して、こうした文でも全体を覆う構文木を出力できるように規則を作成するつもりである。

謝辞

本文法を試作するにあたり、協力をいただいた衛藤純司氏に感謝します。また、定期的に会合に参加していただき、助言をいただいた 荒川直哉、加藤直人 両氏に感謝します。支援をいただいた林輝昭、大槻直子 両氏に感謝します。

参考文献

- [竹澤 94] 竹澤寿幸, 古瀬蔵, 中村篤: “音声言語データベース — 話し言葉を収集し, 音声的・言語的特徴を探る —”, *ATR ジャーナル*, No. 17, pp. 4-5 (1994 秋).
- [竹澤 95a] 竹澤寿幸, 田代敏久, 衛藤純司: “部分木を単位とする音声認識用日本語文法”, *ATR テクニカルレポート*, TR-IT-0110 (1995-04).
- [竹澤 95b] 竹澤寿幸, 田代敏久, 森元逞: “自然発話の言語現象と音声認識用日本語文法”, *情報処理学会研究報告*, 95-SLP-6-5, pp. 27-34 (1995-05).
- [竹澤 95c] 竹澤寿幸, 田代敏久, 衛藤純司: “部分木を単位とする音声認識用日本語文法の改良”, *ATR テクニカルレポート*, TR-IT-0139 (1995-10).
- [竹澤 96a] 竹澤寿幸: “対話音声認識用日本語文法の大語彙化および拡張の検討”, *ATR テクニカルレポート*, TR-IT-0168 (1996-05).
- [竹澤 96b] 竹澤寿幸: “音声言語統合処理のための音声認識用日本語文法”, *ATR テクニカルレポート*, TR-IT-0198 (1996-10).
- [竹澤 96c] 竹澤寿幸, 森元逞: “部分木に基づく構文規則と前終端記号バイグラムを併用する対話音声認識手法”, *信学論 D-II*, Vol. J79-D-II, No. 12, pp. 2078-2085 (1996-12).
- [竹澤 96d] 竹澤寿幸, 森元逞: “構文規則と前終端記号のバイグラムを併用する対話音声認識手法の高度化と高性能化”, *情報処理学会研究報告*, 96-SLP-14-16, pp. 113-120; *電子情報通信学会技術研究報告*, NLC96-53, SP96-84 (1996-12).
- [田中 97] 田中穂積, 竹澤寿幸, 衛藤純司: “MSLR 法を考慮した音声認識用日本語文法 — LR 表工学 (3) —”, *情報処理学会研究報告*, 97-SLP-15-25, pp. 145-150 (1997-02).
- [田代 94] 田代敏久, 竹澤寿幸: “音声言語データベースにおける構文解析情報付与作業マニュアル”, *ATR テクニカルレポート*, TR-IT-0083 (1994-12).
- [浦谷 93] 浦谷則好, 田代敏久, 山田久子, 松本香: “音声言語データベースにおける日本語形態素解析マニュアル”, *ATR テクニカルレポート*, TR-IT-0009 (1993-09).
- [浦谷 94a] 浦谷則好, 田代敏久, 森田千帆: “音声言語データベースにおける日本語形態素解析マニュアルの補遺”, *ATR テクニカルレポート*, TR-IT-0053 (1994-05).
- [浦谷 94b] 浦谷則好, 竹澤寿幸, 松尾秀彦, 森田千帆: “音声言語データベースの構成”, *ATR テクニカルレポート*, TR-IT-0056 (1994-05).

付録 A

対象会話

A.1 会話(1)

- 通訳者: ニューワシントンホテルでございます。担当のメアリ・フィリップスです。
- 申込者: もしもし、[あの] 部屋の子約をお願いしたいんですけども。
- 通訳者: はい、いつがご希望でしょうか。
- 申込者: [えー] 八月の十日 <tooku> から十二日で、シングルルームをお願いします。
- 通訳者:少々お待ちくださいませ。普通のシングルルームは満室となっております。
シングルのシャワー付きのお部屋が一泊 <ippaku> 八十ドルで、ツインのバス付きのお部屋が一泊 <ippaku> 百四十ドルでございますが。
- 申込者: [あ] そうですね。じゃあ、シングルのシャワー付きの部屋をお願いします。
- 通訳者: 分かりました。そちらのお名前と電話番号をお願いいたします。
- 申込者: はい、[え] 鈴木和子と言います。
今、ニューヨークシティホテルに滞在しています。
[えー] ホテルの電話番号ですが、[え] 二零三の四四三の一七零零です。
- 通訳者: 分かりました。だいたい何時ごろチェックインのご予定でしょうか。
- 申込者: たぶん、六時ぐらいになると思います。
- 通訳者: 分かりました。予約を確認させていただきます。鈴木和子様、八月の十日 <tooku> から十二日まで、シングルルームシャワー付き二泊 <nihaku> ですね。
現在、ニューヨークシティホテルにお泊まりですね。電話番号は二零三、四四三、一七零零でよろしいでしょうか。
- 申込者: はい、そうです。[あ] それとトラベラーズチェックは使えますか。
- 通訳者: もちろんです。パスポートの提示をお願いすることになりますけれども。
- 申込者: 分かりました。どうもありがとう。
- 通訳者: ニューワシントンホテルをご利用いただきましてありがとうございます。

A.2 会話 (2)

申込者: もしもし。
 通訳者: はい、ニューワシントンホテルでございます。
 申込者: 宿泊の予約をお願いしたいのですが。
 通訳者: かしこまりました。何名様で、何日からのご予定でございますか。
 申込者: はい、一人なんです、八月の十日から二泊、お願いします。
 通訳者: かしこまりました。お一人様で八月十日から二泊でございますね。
 申込者: はい、そうです。
 通訳者: お部屋の方をお調べいたしますので、しばらくお待ちください。
 申込者: はい。
 通訳者: お待たせいたしました。大変申し訳ございませんが、ただいまバス付のシングルルームが全室満室となっております。かわりにバス付のツインルームをお一人様でご使用いただけますが、こちらでいかがでしょうか。
 申込者: そうですか、料金はそれぞれおいくらなんですか。
 通訳者: はい、バス付のツインルームをお一人様でご使用いただけますと、一泊百四十ドルでございます。あとシャワー付のシングルルームでしたらご用意できます。こちらは一泊八十ドルでございます。
 申込者: そうですか、じゃあバス付の方をお願いしたいのですが。
 通訳者: かしこまりました。お客様のお名前をちょうだいできますか。
 申込者: はい、鈴木直子といます。
 通訳者: 鈴木直子様でいらっしゃいますね。明日<myonichi>のご到着は何時頃<goro>でございますでしょうか。
 申込者: そうですね、六時頃<goro>には到着できると思います。
 通訳者: 午後六時頃<goro>のご到着でございますね、結構でございます。
 申込者: ところで朝食は付いているのでしょうか。
 通訳者: 朝食はご用意できますが、別途十一ドルをちょうだいいたします。
 申込者: そうですか、じゃあ朝食も予約しといてください。
 通訳者: かしこまりました。それではご到着をお待ち申し上げます。
 申込者: よろしくお願いします。
 通訳者: ありがとうございます。

A.3 会話 (3)

通訳者: はい、こちらベニンシュラホテルでございます。
 申込者: あした泊まることになってる鈴木直子<suzukinaoko>といたしますが。
 通訳者: 鈴木様ですね。ご用件を承ります。
 申込者: 到着が遅くなりそうなので、ギャランティにさせていただきたいんですけども。
 通訳者: かしこまりました。チェックインは何時くらいになりそうでしょうか。
 申込者: 午後八時くらいになってしまうと思うんですけども。
 通訳者: 分かりました。お部屋をギャランティにした段階でお支払いいただくこととなります。
 申込者: あ、はい、分かりました。
 通訳者: それではクレジットカードの番号を教えてくださいませんか。
 申込者: マスターカードです。
 番号は五二七九<goninanakyuu>、三九二零<sankyuunizero>、二四六九<niyonrokukyuu>、零零九八<zerozerokyuuuhachi>です。
 通訳者: 確認させていただきます。マスターカードですね。
 番号は五二七九<goninanakyuu>、三九二零<sankyuunizero>、二四六九<niyonrokukyuu>、零零九八<zerozerokyuuuhachi>ですね。
 申込者: はい、そうです。
 じゃ、すみません、[あの]お名前を聞かせていただけますか。
 通訳者: わたくし、ジョン・フィリップスと申します。もしなにかご質問などございましたら、ご遠慮無くお電話いただければと思います。
 申込者: どうも親切にありがとうございます。
 通訳者: どういたしまして。それではお越しをお待ちしております。

A.4 会話(4)

- 通訳者: はい、こちらホリデイインクラウンプラザでございます。
- 申込者: きょう泊まることになってる鈴木直子 <suzukinaoko> といいんですが、ちょっと都合で泊まれなくなったのでキャンセルしたいんですけども。
- 通訳者: かしこまりました、鈴木様。それでは予約を確認いたしますので少々お待ちください。
- 申込者: はい、鈴木様。本日一泊でご予約いただいておりますね。
- 通訳者: 申し訳ありませんが、当日のキャンセルですので、宿泊料の半額を頂くことになります。
- 申込者: 分かりました。
- 通訳者: 半額はいくらになるんでしたっけ。
- 通訳者: 鈴木様のお部屋は、シングルで、百八十六ドルですので、キャンセル料は九十三ドルになります。
- 申込者: はい、分かりました。
- 通訳者: どうやって払えばいいですか。
- 通訳者: ご予約いただいたときに、クレジットカードの番号を教えてくださいまして。
- 申込者: 分かりました。じゃあ、念のため、お名前をお願いできますか。
- 通訳者: はい、ジョン・フィリップスと申します。
- 通訳者: クレジットカードの番号の確認をさせていただきます。
- 申込者: マスターカードですね。
- 通訳者: 番号は五二七九 <goninanakyuu>、三九二零 <sankyuunizero>、二四六九 <niyonrokuyuu>、零零九八 <zerozerokuyuhachi>、これでよろしいでしょうか。
- 申込者: はい、そうです。ではよろしくお願いします。
- 通訳者: 鈴木様、ありがとうございます。またのお越しをお待ちしております。

A.5 会話(5)

- 担当者: ありがとうございます。京都観光 <kyotokankou> ホテルでございます。
- 通訳者: こんばんは。予約をしたいんですけども。
- 担当者: はい、[えー] ご予定のほうはいつでしょうか。
- 通訳者: 八月十日 <tookaa> から十二日まで、二泊 <nihaku> したいんです。できればシングルルームをお願いします。
- 担当者: かしこまりました。少々お待ちくださいませ。
- 通訳者: お待たせいたしました。恐れ入りますが、シングルルームは満室となっております。
- 担当者: [え] 和室かツインルームの一人様使用でしたらお取りいただけますか。
- 通訳者: そのお部屋の料金を教えてください。
- 担当者: はい、[えー] ツインルームの一人様使用ですと一万四千元。
- 通訳者: 和室のほうですと一万八千元、[えー] いずれも税、サービス料は別になります。
- 担当者: 分かりました。それじゃあ、ツインのほうをお願いします。
- 通訳者: かしこまりました。お客様のお名前とご連絡先の電話番号をお願いいたします。
- 担当者: 分かりました。わたくしの名前はメアリ・フィリップスです。東京ホテルに滞在しております。電話番号ちょっと探します。
- 通訳者: [あ] ありました。電話番号は零三、四四四三、一七零零です。
- 担当者: はい、ありがとうございます。ご予約のほう、確認いたしますので。
- 通訳者: お客様のお名前がメアリ・フィリップス様。
- 担当者: ご連絡先のお電話番号が、東京 <tokyo> ホテル、零三の四四四三の一七零零。
- 通訳者: ご宿泊のご予定が八月十日 <tookaa> から十二日の二泊 <nihaku>。
- 担当者: [えー] ツインルームの一人様使用でよろしいでしょうか。
- 通訳者: はい、その通りです。
- 担当者: [えー] 当日のご到着時間はお分かりになりますでしょうか。
- 通訳者: はい、[えー] だいたい、夕方の六時ごろチェックインしたいと思うんですけども、よろしいでしょうか。
- 担当者: かしこまりました。ご予約のほうは、わたくし鈴木が承りました。お待ちいたしております。

A.6 会話 (6)

通訳者: もしもし。
 担当者: 京都観光ホテルでございます。
 通訳者: はい、私、ジョン・フィリップスと申しますが、予約をお願いしたいのですが。
 担当者: ありがとうございます。では宿泊の人数とご予定をお願いします。
 通訳者: [えっ] 一人で八月十日から二泊お願いします。
 担当者: はい、ご一名様で、八月十日のご到着、八月十二日の朝、ご出発でございますね。
 通訳者: そのとおりです。
 担当者: 少々お待ちください。今、お調べいたします。
 通訳者: お願いします。
 担当者: あいにくでございますが、シングルルームが満室となっております。
 通訳者: [ああ] そうですか。
 担当者: ですがお客様、和室かツインルームのシングルユースでしたら空きがございますが。
 通訳者: そうですね。それぞれおいくらですか。
 担当者: 和室の方が一部屋で一泊一万八千円、ツインルームのシングルユースの方は一万四千円となっております。どちらも税、サービス料は別途ちょうだいいたします。
 通訳者: わかりました。それではツインルームをお願いします。
 担当者: 承知いたしました。それではお名前をちょうだいしたいのですが。
 通訳者: はい、ジョン・フィリップスと申します。
 担当者: ジョン・フィリップス様、ファーストネームがジョン様で、ラストネームがフィリップス様ですね。
 通訳者: ええ、そうです。
 担当者: 明日 <asu> のご到着のお時間はおわかりですか。
 通訳者: そうですね、午後六時頃 igoro に なると思います。
 担当者: 承知いたしました。
 通訳者: [あっ] それから朝食はついてるんですか。
 担当者: 朝食のご用意はできますが、宿泊料と別に千二百円ちょうだいいたしております。和食、洋食共に千二百円いただきます。
 通訳者: わかりました。それでは洋食の方をお願いします。
 担当者: かしこまりました。ジョン・フィリップス様、ご到着をお待ちいたしております。私、鈴木がお伺いいたしました。
 通訳者: ありがとうございます。鈴木さんですね。
 担当者: はい、そうです。それではお待ちいたしております。
 通訳者: じゃよろしくをお願いします。

A.7 会話 (7)

担当者: 京都新阪急 <kyotoshinhankyuu> ホテルでございます。
 通訳者: はい、わたくしジョン・フィリップスと申します。
 十月二十五日から三泊 <sanpaku> 予約を入れてるんですが、予約を一泊延長して、二十八日の夜も泊まりたいんですけども。
 担当者: はい、ジョン・フィリップス様、確認いたしますので、お待ちくださいませ。お待たせいたしました。シングル一泊一万円のお部屋でしたね。
 通訳者: はい、そうです。
 担当者: 同じお部屋、ご用意できます。
 ほかに変更はございませんか。
 通訳者: いいえ、ほかには有りません。
 担当者: では確認させていただきます。
 ジョン・フィリップス様、十月二十五日火曜日から、二十九日土曜日、四泊 <yonpaku> の予定ということよろしいですか。
 シングルのお部屋、ご用意させていただきます。
 通訳者: はい、それで結構です。
 担当者: では、お越しをお待ちしております。
 通訳者: ありがとうございます。
 担当者: ありがとうございます。

A.8 会話 (8)

- 担当者: はい、京都新阪急<kyoutoshinhankyuu> ホテルでございます。
- 通訳者: はい、あしたの晩、一名、[えー] シングルルームの予約をお願いしたいんですが。
- 担当者: かしこまりました。少々お待ちくださいませ。
- お待たせいたしました。申し訳ございません。シングルは満室となっております。
- 通訳者: そうですか。ほかに部屋はありますか。
- 担当者: はい、少々お待ちくださいませ。
- お待たせいたしました。
- ツインのお部屋でしたら、ご用意できます。
- 一万七千円<ichimannanasenen> か一万九千円のお部屋をご用意できますが。
- 通訳者: [んー] ちょっと高いですね。もっと安い部屋は無いですか。
- 担当者: 申し訳ございません。当ホテルでは一万七千円<ichimannanasenen> のお部屋からのご利用となっております。
- 通訳者: じゃ、しょうがないですね。じゃ、この一万七千円<ichimannanasenen> の部屋にします。
- 担当者: かしこまりました。
- では、ご朝食の方はいかがなさいますか。
- 通訳者: [え] 出発が朝早いので朝食は結構です。
- 担当者: そうですか。
- ではご到着時間を教えてください。
- 通訳者: はい、[えー] 夜十時ごろになると思うんですが。
- 担当者: 分かりました。
- お支払いの方<hou> はいかがなさいますか。
- 通訳者: 現金で支払います。
- 担当者: ではお名前とご連絡先の方<hou> を教えてください。
- 通訳者: はい、名前はジョン・フィリップスです。
- 今東京シティホテルに滞在しています。
- [え] 電話番号は零三<zerosan> の、三二二三<sanninisan>、一二三四<ichinisanyon> です。
- 担当者: 繰り返します。
- ジョン・フィリップス様ですね。
- 東京シティホテルご滞在。零三<zerosan> の三二二三<sanninisan> の一二三四<ichinisanyon> でよろしいですか。
- 通訳者: はい、そうです。
- 担当者: ではジョン・フィリップス様、あした十月二十八日、金曜日、ツイン一万七千円のお部屋をご用意いたします。
- 通訳者: はい、ではどうもありがとうございました。
- 担当者: お越しをお待ちしております。

A.9 会話 (9)

- 担当者: 都ホテル、予約係でございます。
- 通訳者: はい、予約をお願いしたいんですが。
- 担当者: いつのお泊まりでしょうか。
- 通訳者: 九月二日 <futsuka> から三日間 <mikkakan> でお願ひします。
- 担当者: [えー] お泊まりは、何名様でしょうか。
- 通訳者: わたしと妻と子どもの三人です。
- 担当者: お部屋の御希望はございますか。
- 通訳者: もしあれば、トリプルルームで、お願ひしたいんですけど。
- 担当者: あいにく、トリプルルームはございません。
- 通訳者: そうですか、それじゃあ和室はどうですか。
- 担当者: はい、別館の和室がございまして。もちろん三人様でお泊まりいただけます。お部屋を調べます。しばらくお待ちください。
- 通訳者: お願いします。
- 担当者: お待たせいたしました。洋室は、一泊二食付き、二万円、補助ベッドが入ります。
- 通訳者: それはいいですね。ちょうど、二万円前後で、考えたもんですから。[あ] でも和室についても聞きたいんですけど。
- 担当者: 和室の方 <hou> は料理も和食になっております。お値段は、お一人様、二食付き、一泊、二万五千円からとなっております。
- 通訳者: ということは、その値段の差額というのは料理に差が出るわけですか。
- 担当者: いいえ、広さや、グレードによって、料金が変わってまいります。
- 通訳者: そうですか、[あ] では和室で二万五千円のお部屋をお願いします。
- 担当者: はい、分かりました。
- それでは、お名前と、[えー] 連絡先をお願いいたします。
- 通訳者: わたしは、ジョン・フィリップスと申します。今、ホテル東京インに滞在して、部屋番号が七百五十一号室です。[え] そして電話番号の方 <hou> が、零 <zero> 三、三二四五、二二三三番です。
- 担当者: [えー] お名前が、ジョン・フィリップ様ですね。ホテル東京イン、七百五十一号室にお泊まりですね。お電話番号が、零 <zero> 三、三二四五、(二二一三) 二二三三ですね。
- 通訳者: そうです。ホテル東京インの番号です。
- 担当者: はい、それでは、九月二、三、四日 <yokka> の三日間 <mikkakan>、御夫婦とお子様でお取りいたします。お値段は、和室一泊二万五千円ですね。
- 通訳者: [え] そうです。どうもいろいろありがとう。
- 担当者: わたくし、予約係の鈴木と申します。お待ちしております。

付録 B

音韻表記

音声認識に用いる文法では、終端レベルで単語の音韻表記が与えられている。

表 B.1: 音韻表記一覧

あ行	a	i	u	e	o
か行	ka	ki	ku	ke	ko
さ行	sa	shi	su	se	so
た行	ta	chi	tsu(っ)	te	to
			q(っ)		
な行	na	ni	nu	ne	no
は行	ha	hi	hu	he	ho
ま行	ma	mi	mu	me	mo
や行	ya		yu		yo
ら行	ra	ri	ru	re	ro
わ行	wa				o
ん	=				
が行	ga	gi	gu	ge	go
ざ行	za	zi	zu	ze	zo
だ行	da	zi	zu	de	do
ば行	ba	bi	bu	be	bo
ぱ行	pa	pi	pu	pe	po
きゃ行	ky a		ky u		ky o
ぎゃ行	gy a		gy u		gy o
しゃ行	sh a		sh u		sh o
じゃ行	zy a		zy u		zy o
ちゃ行	ch a		ch u		sh o
にゃ行	ny a		ny u		ny o
ひゃ行	hy a		hy u		hy o
びゃ行	by a		by u		by o
みゃ行	my a		my u		my o
りゃ行	ry a		ry u		ry o
長母音	aa	ii	uu	ee	oo
				ei	ou
ファ行	fa	fi		fe	fo
ティ行		ti			

付録 C

単語の属性

音声認識用文法の語彙規則には、音韻表記の後ろに種々の注釈が書かれている。

(<pow-n-hutu> <--> (i sh a) ("医者" "イシャ" "医者" "普通名詞"))
(<vstem-5-k/ga> <--> (a r u) ("歩" "アル" "歩" "本動詞" "語幹" "五段カ"))
(<vinfl-5-k-i> <--> (i) ("い" "イ" "く" "語尾" "連用" "五段カ" "い音便"))

それぞれの項目の内容は次のとおりである。

出現形	SLDB の JMOR [浦谷 93, 浦谷 94a] に出現する形
読み	出現形に対する読み。カタカナで記述する。
正規表現	出現形に対する標準的な表記。漢字は常用漢字で、大辞林の一番目の表記を採用する。活用語の語幹は語幹のみ、語尾は終止形を記述する。
品詞	SLDB の JMOR [浦谷 93, 浦谷 94a] の品詞体系にしたがって記述する。
活用形	活用語の活用形
活用型	活用語の活用型
音便	活用語の音便形

活用しない語は、出現形、読み、標準表記、品詞の四つの属性が記述されている。活用する語は、これに、活用型と活用形を加えた六つの属性が記述されている。活用する語の活用語尾のうち音便形であるものは最後に音便形が付加される。

「読み」の項について一言。従来の文法ファイルには .lex という拡張子が付与されていた。これには「読み」の項がない。そのため、第一研究室の単語グラフによる音声認識システムとの統合に際して、マスター辞書とのあいだに不整合が生じた。そこで、.lexyomi という拡張子を持つファイルを作成して、それに「読み」の項を付け加えたのである。.lex ファイルは、.lexyomi ファイルから「読み」の項を自動的に削除して作成される。したがって、これまでに開発してきたアプリケーションは、従来通り .lex ファイルを用いることができる。

付録 D

語彙セット

今回試作した日本語文法 SG, SH, M, L で扱う語彙セットを、旅行 12 会話 (A ~ L) を対象とする日本語文法 (テクニカルレポート TR-IT-0139, TR-IT-0198 共通) で扱う語彙セットとともに示す。

D.1 語彙一覧

品詞	見出し語	正規表現	SG	SH	M	L	AL
感動詞	ありがとう	ありがとう	○	-	○	○	○
感動詞	ありがとうございました	ありがとうございました	○	○	○	○	○
感動詞	ありがとうございます	ありがとうございます	○	○	○	○	○
感動詞	いいえ	いいえ	○	○	○	○	○
感動詞	いえ	いえ	-	-	-	-	○
感動詞	ええ	ええ	○	○	○	○	○
感動詞	お世話さまでした	おせわさまでした	-	-	-	-	○
感動詞	恐れ入ります	おそれ入ります	-	-	-	-	○
感動詞	お願いします	おねがいします	○	-	○	○	○
感動詞	かしこまりました	かしこまりました	-	○	○	○	○
感動詞	こんばんは	こんばんは	-	-	-	○	-
感動詞	失礼いたします	しつれいいたします	-	-	-	-	○
感動詞	承知いたしました	しょうちいたしました	-	○	○	○	○
感動詞	承知しました	しょうちしました	-	-	-	-	○
感動詞	すみません	すみません	-	-	-	-	○
感動詞	すみません	すみません	○	-	○	○	○
感動詞	そうですね	そうですね	○	-	○	○	○
感動詞	それは	それは	-	-	-	-	○
感動詞	どういたしまして	どういたしまして	-	-	-	○	○
感動詞	どうも	どうも	○	-	○	○	○
感動詞	はい	はい	○	○	○	○	○
感動詞	申し訳ございません	申し訳ございません	-	○	○	○	○
感動詞	もしもし	もしもし	○	-	○	○	○
間投詞	あ	あ	○	-	○	○	○
間投詞	あー	あー	-	-	-	-	○
間投詞	ああ	ああ	-	-	-	○	-
間投詞	あっ	あっ	-	-	-	○	○
間投詞	あの	あの	○	-	○	○	○
間投詞	あのー	あのー	○	-	○	○	○
間投詞	いやー	いやー	-	-	-	-	○

品詞	見出し語	正規表現	SG	SH	M	L	AL
間投詞	う	う	-	-	-	-	○
間投詞	うー	うー	-	-	-	-	○
間投詞	うーん	うーん	-	-	-	○	○
間投詞	うん	うん	-	-	-	-	○
間投詞	うんと	うんと	-	-	-	-	○
間投詞	うんとー	うんとー	-	-	-	-	○
間投詞	え	え	○	○	○	○	○
間投詞	えー	えー	○	○	○	○	○
間投詞	ええ	ええ	○	-	○	○	-
間投詞	えーと	えーと	-	-	-	-	○
間投詞	えーつと	えーつと	-	-	-	-	○
間投詞	ええつと	ええつと	-	-	-	○	-
間投詞	えっ	えっ	-	-	-	○	-
間投詞	えつと	えつと	-	-	-	-	○
間投詞	えと	えと	-	-	-	-	○
間投詞	お	お	-	○	○	○	○
間投詞	おー	おー	-	-	-	-	○
間投詞	そうですねー	そうですねー	-	-	-	-	○
間投詞	と	と	-	-	-	-	○
間投詞	つと	つと	-	-	-	-	○
間投詞	はい	はい	-	○	○	○	○
間投詞	んー	んー	-	-	-	-	○
間投詞	んとー	んとー	-	-	-	-	○
接続詞	同じく	同じく	-	-	-	-	○
接続詞	しかし	しかし	-	-	-	-	○
接続詞	実は	実は	-	-	-	-	○
接続詞	じゃ	じゃ	○	-	○	○	○
接続詞	じゃあ	じゃあ	○	-	○	○	○
接続詞	そうしましたら	そうしましたら	-	-	-	-	○
接続詞	そうしますと	そうしますと	-	-	-	-	○
接続詞	そして	そして	-	-	-	○	○
接続詞	それから	それから	-	-	-	○	○
接続詞	それじゃ	それじゃ	-	-	-	-	○
接続詞	それじゃあ	それじゃあ	-	-	-	○	-
接続詞	それで	それで	-	-	-	-	○
接続詞	それでしたら	それでしたら	-	-	-	-	○
接続詞	それでは	それでは	-	○	○	○	-
接続詞	それと	それと	○	-	○	○	○
接続詞	それとも	それとも	-	-	-	-	○
接続詞	それなら	それなら	-	-	-	-	○
接続詞	ただし	ただし	-	-	-	-	○
接続詞	で	で	-	-	-	-	○
接続詞	ですが	ですが	-	○	○	○	-
接続詞	ですから	ですから	-	-	-	-	○
接続詞	ですので	ですので	-	-	-	-	○
接続詞	では	では	○	○	○	○	○
接続詞	でも	でも	-	-	-	○	-
接続詞	ということは	ということは	-	-	-	○	-

品詞	見出し語	正規表現	SG	SH	M	L	AL
接続詞	ところで	ところで	○	-	○	○	○
接続詞	また	また	-	-	-	-	○
接続詞	または	または	○	-	○	○	○
接続詞	もしくは	もしくは	-	-	-	-	○
普通名詞	間	間	-	-	-	-	○
普通名詞	アイデア	アイデア	-	-	-	-	○
普通名詞	空き	空き	○	○	○	○	○
普通名詞	朝	朝	○	○	○	○	○
普通名詞	あさって	あさって	-	-	-	-	○
普通名詞	あした	明日	○	○	○	○	-
普通名詞	明日	明日	○	○	○	○	○
普通名詞	以外	以外	-	-	-	-	○
普通名詞	以降	以降	-	-	-	-	○
普通名詞	医者	医者	-	-	-	-	○
普通名詞	一部	一部	-	-	-	-	○
普通名詞	イニシャル	イニシャル	○	-	○	○	○
普通名詞	今	今	○	○	○	○	○
普通名詞	上	上	-	-	-	-	○
普通名詞	受け取り	受け取り	-	-	-	-	○
普通名詞	上着	上着	-	-	-	-	○
普通名詞	エー席	エー席	-	-	-	-	○
普通名詞	営業所	営業所	-	-	-	-	○
普通名詞	エキストラベッド	エキストラベッド	-	-	-	-	○
普通名詞	宴会	宴会	-	-	-	-	○
普通名詞	宴会場	宴会場	-	-	-	-	○
普通名詞	大人	大人	-	-	-	-	○
普通名詞	オムレツ	オムレツ	-	-	-	-	○
普通名詞	オレンジジュース	オレンジジュース	-	-	-	-	○
普通名詞	カード	カード	○	-	○	○	○
普通名詞	会社	会社	-	-	-	-	○
普通名詞	会場	会場	-	-	-	-	○
普通名詞	価格	価格	-	-	-	-	○
普通名詞	係	係	○	-	○	○	○
普通名詞	飾りつけ	飾りつけ	-	-	-	-	○
普通名詞	家族	家族	-	-	-	-	○
普通名詞	方	方	-	-	-	-	○
普通名詞	片道	片道	-	-	-	-	○
普通名詞	カメラ	カメラ	-	-	-	-	○
普通名詞	革	革	-	-	-	-	○
普通名詞	幹事	幹事	-	-	-	-	○
普通名詞	かわり	代わり	-	-	-	○	-
普通名詞	期間	期間	○	-	○	○	○
普通名詞	期限	期限	-	-	-	-	○
普通名詞	規則	規則	-	-	-	-	○
普通名詞	気分	気分	-	-	-	-	○
普通名詞	規模	規模	-	-	-	-	○
普通名詞	客	客	-	○	○	○	○
普通名詞	ギャランティ	ギャランティ	○	-	○	○	-

品詞	見出し語	正規表現	SG	SH	M	L	AL
普通名詞	きょう	今日	○	-	○	○	○
普通名詞	禁煙席	禁煙席	-	-	-	-	○
普通名詞	空席	空席	-	-	-	-	○
普通名詞	薬	薬	-	-	-	-	○
普通名詞	グリーン席	グリーン席	-	-	-	-	○
普通名詞	グレード	グレード	-	○	○	○	-
普通名詞	クレジットカード	クレジットカード	-	-	-	○	○
普通名詞	ケーキ	ケーキ	-	-	-	-	○
普通名詞	形式	形式	-	-	-	-	○
普通名詞	件	件	-	-	-	-	○
普通名詞	現金	現金	-	-	-	○	○
普通名詞	現在	現在	-	-	-	○	○
普通名詞	当日	当日	-	○	○	○	○
普通名詞	子	子	-	○	○	○	-
普通名詞	コース	コース	-	-	-	-	○
普通名詞	コーチ	コーチ	-	-	-	-	○
普通名詞	航空券	航空券	-	-	-	-	○
普通名詞	口座	口座	-	-	-	○	○
普通名詞	氷まくら	氷まくら	-	-	-	-	○
普通名詞	午後	午後	○	○	○	○	○
普通名詞	心	心	-	-	-	-	○
普通名詞	午前	午前	○	○	○	○	○
普通名詞	ご存じ	御存じ	-	○	○	○	○
普通名詞	こと	こと	○	-	○	○	○
普通名詞	子ども	子ども	-	-	-	○	-
普通名詞	御用	御用	-	-	-	-	○
普通名詞	今月	今月	-	-	-	-	○
普通名詞	コンチネンタル	コンチネンタル	-	-	-	-	○
普通名詞	サンドイッチ	サンドイッチ	-	-	-	-	○
普通名詞	シー席	シー席	-	-	-	-	○
普通名詞	しかた	しかた	-	-	-	-	○
普通名詞	差	差	-	-	-	○	-
普通名詞	差額	差額	-	-	-	○	-
普通名詞	時間	時間	○	○	○	○	○
普通名詞	時刻	時刻	○	-	○	○	○
普通名詞	シーディープレーヤー	シーディープレーヤー	-	-	-	-	○
普通名詞	支店	支店	-	-	-	-	○
普通名詞	シャワー	シャワー	○	-	○	○	○
普通名詞	住所	住所	-	-	-	-	○
普通名詞	種類	種類	-	-	-	-	○
普通名詞	ショー	ショー	-	-	-	-	○
普通名詞	女性	女性	-	-	-	-	○
普通名詞	シングル	シングル	○	○	○	○	○
普通名詞	シングルユース	シングルユース	○	○	○	○	○
普通名詞	シングルルーム	シングルルーム	-	-	-	○	○
普通名詞	税	税	○	○	○	○	○
普通名詞	税金	税金	○	○	○	○	○
普通名詞	税込み	税込み	○	-	○	○	○

品詞	見出し語	正規表現	SG	SH	M	L	AL
普通名詞	席	席	-	-	-	-	○
普通名詞	節	節	-	-	-	-	○
普通名詞	全室	全室	-	-	-	○	○
普通名詞	全席	全席	-	-	-	-	○
普通名詞	全部	全部	-	-	-	-	○
普通名詞	送別会	送別会	-	-	-	-	○
普通名詞	そのほか	その外	-	-	-	-	○
普通名詞	そのまま	そのまま	-	-	-	-	○
普通名詞	タイ	タイ	-	-	-	-	○
普通名詞	体温計	体温計	-	-	-	-	○
普通名詞	タイプ	タイプ	-	-	-	-	○
普通名詞	代理店	代理店	-	-	-	-	○
普通名詞	楽しみ	楽しみ	-	-	-	-	○
普通名詞	ダブル	ダブル	-	-	-	-	○
普通名詞	ダブルルーム	ダブルルーム	○	-	○	○	○
普通名詞	食べ物	食べ物	-	-	-	-	○
普通名詞	ため	ため	-	-	-	-	○
普通名詞	段階	段階	-	-	-	○	-
普通名詞	男性	男性	-	-	-	-	○
普通名詞	近く	近く	-	-	-	-	○
普通名詞	チケット	チケット	-	-	-	-	○
普通名詞	チケットカウンター	チケットカウンター	-	-	-	-	○
普通名詞	茶色	茶色	-	-	-	-	○
普通名詞	中心	中心	-	-	-	-	○
普通名詞	ちゅう房	ちゅう房	-	-	-	-	○
普通名詞	朝食	朝食	○	○	○	○	○
普通名詞	調子	調子	-	-	-	-	○
普通名詞	ツアー	ツアー	-	-	-	-	○
普通名詞	ツイン	ツイン	○	○	○	○	○
普通名詞	ツインルーム	ツインルーム	○	○	○	○	○
普通名詞	次	次	-	-	-	-	○
普通名詞	妻	妻	-	-	-	○	○
普通名詞	釣り	釣り	-	-	-	-	○
普通名詞	テーブルチャージ	テーブルチャージ	-	-	-	-	○
普通名詞	程度	程度	-	-	-	-	○
普通名詞	ディナー	ディナー	-	-	-	-	○
普通名詞	デザート	デザート	-	-	-	-	○
普通名詞	デスク	デスク	-	-	-	-	○
普通名詞	寺	寺	-	-	-	-	○
普通名詞	デラックスタイプ	デラックスタイプ	-	-	-	-	○
普通名詞	電車	電車	-	-	-	-	○
普通名詞	電話番号	電話番号	○	○	○	○	○
普通名詞	ドア	ドア	-	-	-	-	○
普通名詞	とおり	通り	-	-	-	○	-
普通名詞	通り	通り	-	-	-	-	○
普通名詞	とき	時	-	-	-	○	○
普通名詞	特徴	特徴	-	-	-	-	○
普通名詞	所	所	-	-	-	-	○

品詞	見出し語	正規表現	SG	SH	M	L	AL
普通名詞	泊まり	泊まり	-	○	○	○	○
普通名詞	友達	友達	-	-	-	-	○
普通名詞	トラベラーズチェック	トラベラーズチェック	○	-	○	○	○
普通名詞	トリプルルーム	トリプルルーム	-	○	○	○	-
普通名詞	内容	内容	-	-	-	-	○
普通名詞	中	中	-	-	-	-	○
普通名詞	名札	名札	-	-	-	-	○
普通名詞	名前	名前	○	○	○	○	○
普通名詞	生クリーム	生クリーム	-	-	-	-	○
普通名詞	何時	何時	-	-	-	-	○
普通名詞	ナンバー	ナンバー	-	-	-	-	○
普通名詞	何名	何名	-	○	○	○	○
普通名詞	荷物	荷物	-	-	-	-	○
普通名詞	女房	女房	-	-	-	-	○
普通名詞	人数	人数	○	○	○	○	○
普通名詞	値段	値段	○	○	○	○	○
普通名詞	熱	熱	-	-	-	-	○
普通名詞	飲物	飲み物	-	-	-	-	○
普通名詞	場合	場合	-	-	-	-	○
普通名詞	場所	場所	-	-	-	-	○
普通名詞	バス	バス	○	-	○	○	○
普通名詞	バスデーパーティープラン	バスデーパーティープラン	-	-	-	-	○
普通名詞	パーティー	パーティー	-	-	-	-	○
普通名詞	パスポート	パスポート	○	-	○	○	○
普通名詞	バック	バック	-	-	-	-	○
普通名詞	晩	晩	-	-	-	○	○
普通名詞	半額	半額	○	-	○	○	-
普通名詞	番号	番号	○	○	○	○	○
普通名詞	日	日	-	○	○	○	○
普通名詞	ビー席	ビー席	-	-	-	-	○
普通名詞	ビデオカメラ	ビデオカメラ	-	-	-	-	○
普通名詞	日にち	日にち	○	-	○	○	○
普通名詞	昼	昼	-	-	-	-	○
普通名詞	便	便	-	-	-	-	○
普通名詞	便名	便名	-	-	-	-	○
普通名詞	ファースト	ファースト	-	-	-	-	○
普通名詞	ファーストネーム	ファーストネーム	-	○	○	○	○
普通名詞	ファイル	ファイル	-	-	-	-	○
普通名詞	夫婦	夫婦	-	○	○	○	-
普通名詞	普通	普通	-	-	-	○	○
普通名詞	普通席	普通席	-	-	-	-	○
普通名詞	プラン	プラン	-	-	-	-	○
普通名詞	ブリーフケース	ブリーフケース	-	-	-	-	○
普通名詞	プール	プール	-	-	-	-	○
普通名詞	フルーツタルト	フルーツタルト	-	-	-	-	○
普通名詞	フロント	フロント	○	-	○	○	○
普通名詞	分	分	-	-	-	-	○
普通名詞	ベッド	ベッド	-	○	○	○	○

品詞	見出し語	正規表現	SG	SH	M	L	AL
普通名詞	部屋	部屋	○	○	○	○	○
普通名詞	部屋番号	部屋番号	-	-	-	○	-
普通名詞	別館	別館	-	○	○	○	-
普通名詞	ほう	方	-	○	○	○	-
普通名詞	方	方	○	○	○	○	○
普通名詞	方法	方法	-	-	-	-	○
普通名詞	ほか	外	-	○	○	○	○
普通名詞	ホテル	ホテル	○	○	○	○	○
普通名詞	本	本	-	-	-	-	○
普通名詞	本日	本日	-	-	-	○	-
普通名詞	まま	まま	-	-	-	-	○
普通名詞	満室	満室	○	○	○	○	○
普通名詞	満席	満席	-	-	-	-	○
普通名詞	メニュー	メニュー	-	-	-	-	○
普通名詞	もの	物	-	-	-	-	○
普通名詞	者	者	-	-	-	-	○
普通名詞	問題	問題	-	-	-	-	○
普通名詞	やつ	やつ	-	-	-	-	○
普通名詞	夕方	夕方	-	-	-	○	○
普通名詞	よう	よう	-	-	-	-	○
普通名詞	用件	用件	-	-	-	○	○
普通名詞	洋室	洋室	-	○	○	○	-
普通名詞	洋食	洋食	-	○	○	○	○
普通名詞	翌日	翌日	-	-	-	-	○
普通名詞	夜	夜	-	-	-	○	○
普通名詞	ラストネーム	ラストネーム	-	○	○	○	○
普通名詞	リゾット	リゾット	-	-	-	-	○
普通名詞	立食	立食	-	-	-	-	○
普通名詞	料金	料金	○	○	○	○	○
普通名詞	ルームサービス	ルームサービス	-	-	-	-	○
普通名詞	レストラン	レストラン	-	-	-	-	○
普通名詞	連絡先	連絡先	-	○	○	○	○
普通名詞	ローカル	ローカル	-	-	-	-	○
普通名詞	廊下	廊下	-	-	-	-	○
普通名詞	ロビー	ロビー	-	-	-	-	○
普通名詞	訳	訳	-	-	-	○	-
普通名詞	和室	和室	-	○	○	○	○
普通名詞	和食	和食	-	○	○	○	○
普通名詞	エイ	エー	○	○	○	○	○
普通名詞	エー	エー	○	○	○	○	○
普通名詞	ビー	ビー	○	○	○	○	○
普通名詞	シー	シー	○	○	○	○	○
普通名詞	ディ	ディ	○	○	○	○	○
普通名詞	イー	イー	○	○	○	○	○
普通名詞	エフ	エフ	○	○	○	○	○
普通名詞	ジー	ジー	○	○	○	○	○
普通名詞	エイチ	エッチ	○	○	○	○	○
普通名詞	アイ	アイ	○	○	○	○	○

品詞	見出し語	正規表現	SG	SH	M	L	AL
普通名詞	ジェー	ジェー	○	○	○	○	○
普通名詞	ケー	ケー	○	○	○	○	○
普通名詞	エル	エル	○	○	○	○	○
普通名詞	エム	エム	○	○	○	○	○
普通名詞	エヌ	エヌ	○	○	○	○	○
普通名詞	オー	オー	○	○	○	○	○
普通名詞	ピー	ピー	○	○	○	○	○
普通名詞	キュー	キュー	○	○	○	○	○
普通名詞	アール	アール	○	○	○	○	○
普通名詞	エス	エス	○	○	○	○	○
普通名詞	テイ	テイ	○	○	○	○	○
普通名詞	ユー	ユー	○	○	○	○	○
普通名詞	ヴイ	ヴイ	○	○	○	○	○
普通名詞	ダブリュー	ダブリュー	○	○	○	○	○
普通名詞	エックス	エックス	○	○	○	○	○
普通名詞	ワイ	ワイ	○	○	○	○	○
普通名詞	ゼット	ゼット	○	○	○	○	○
固有名詞	アールシーエービルディング	アールシーエービルディング	-	-	-	-	○
固有名詞	ウエストサイドホテル	ウエストサイドホテル	-	-	-	-	○
固有名詞	エアーパシフィック	エアーパシフィック	-	-	-	-	○
固有名詞	エアパシフィック	エアパシフィック	-	-	-	-	○
固有名詞	エルエーエックス	エルエーエックス	-	-	-	-	○
固有名詞	オペラ座の怪人	オペラ座の怪人	-	-	-	-	○
固有名詞	京都	京都	-	○	○	○	○
固有名詞	京都観光ホテル	京都観光ホテル	-	○	○	○	○
固有名詞	京都新阪急ホテル	京都新阪急ホテル	-	○	○	○	-
固有名詞	嵯峨野	嵯峨野	-	-	-	-	○
固有名詞	ジェーエフケー空港	ジェーエフケー空港	-	-	-	-	○
固有名詞	ジュエルナイト	ジュエルナイト	-	-	-	-	○
固有名詞	東京	東京	-	-	-	-	○
固有名詞	東京シティホテル	東京シティホテル	-	○	○	○	○
固有名詞	東京商事	東京商事	-	-	-	-	○
固有名詞	東京ホテル	東京ホテル	-	○	○	○	○
固有名詞	ニューヨーク	ニューヨーク	-	-	-	-	○
固有名詞	ニューヨークシティホテル	ニューヨークシティホテル	○	-	○	○	○
固有名詞	ニューヨーク支店	ニューヨーク支店	-	-	-	-	○
固有名詞	ニューワシントンホテル	ニューワシントンホテル	-	-	-	○	○
固有名詞	のぞみ	のぞみ	-	-	-	-	○
固有名詞	ハーフムーンクルーズ	ハーフムーンクルーズ	-	-	-	-	○
固有名詞	ビザカード	VISAカード	-	-	-	-	○
固有名詞	ペニンシュラホテル	ペニンシュラホテル	-	-	-	○	-
固有名詞	ホテル東京イン	ホテル東京イン	-	○	○	○	-
固有名詞	ホリデイインクラウンプラザ	ホリデイインクラウンプラザ	-	-	-	○	○
固有名詞	マジェスティックシアター	マジェスティックシアター	-	-	-	-	○
固有名詞	マスターカード	マスターカード	○	-	○	○	○
固有名詞	南座	南座	-	-	-	-	○
固有名詞	都ホテル	都ホテル	-	○	○	○	-
固有名詞	メトロプラザホテル	メトロプラザホテル	-	-	-	-	○

品詞	見出し語	正規表現	SG	SH	M	L	AL
固有名詞	メトロライナー	メトロライナー	-	-	-	-	○
固有名詞	ユニオン駅	ユニオン駅	-	-	-	-	○
固有名詞	レインボールーム	レインボールーム	-	-	-	-	○
固有名詞	ロサンジェルス支店	ロサンジェルス支店	-	-	-	-	○
固有名詞	ロス	ロス	-	-	-	-	○
固有名詞	ロックフェラープラザ	ロックフェラープラザ	-	-	-	-	○
固有名詞	ワシントンディーシー	ワシントンディーシー	-	-	-	-	○
固有名詞	ワシントンホテル	ワシントンホテル	-	-	-	-	○
人名	鈴木	鈴木	○	○	○	○	○
人名	田中	田中	-	-	-	-	○
人名	和夫	和夫	-	-	-	-	○
人名	和子	和子	○	-	○	○	○
人名	健史	健史	-	-	-	-	○
人名	直子	直子	○	-	○	○	○
人名	弘子	弘子	-	-	-	-	○
人名	エイミー	エイミー	-	-	-	-	○
人名	ジョン	ジョン	-	○	○	○	○
人名	メアリ	メアリ	-	○	○	○	○
人名	リサ	リサ	-	-	-	-	○
人名	ハリス	ハリス	-	-	-	-	○
人名	フィリップ	フィリップ	-	○	○	○	-
人名	フィリップス	フィリップス	-	○	○	○	○
代名詞	いくら	いくら	○	-	○	○	○
代名詞	いずれ	いずれ	-	○	○	○	-
代名詞	いつ	いつ	-	○	○	○	○
代名詞	彼	彼	-	-	-	-	○
代名詞	ここ	ここ	-	-	-	-	○
代名詞	こちら	こちら	-	-	-	○	○
代名詞	これ	これ	-	-	-	○	○
代名詞	そこ	そこ	-	-	-	-	○
代名詞	そちら	そちら	-	-	-	○	○
代名詞	それ	それ	-	○	○	○	○
代名詞	どこ	どこ	-	-	-	-	○
代名詞	どちら	どちら	-	○	○	○	○
代名詞	どなた	どなた	-	-	-	-	○
代名詞	どれ	どれ	-	-	-	-	○
代名詞	何	何	-	-	-	○	○
代名詞	ほく	僕	-	-	-	-	○
代名詞	わたくし	私	-	○	○	○	○
代名詞	わたし	私	-	-	-	○	○
代名詞	私	私	-	○	○	○	-
サ変名詞	案内	案内	-	-	-	-	○
サ変名詞	延長	延長	-	-	-	○	○
サ変名詞	往復	往復	-	-	-	-	○
サ変名詞	お越し	お越し	-	○	○	○	○
サ変名詞	開演	開演	-	-	-	-	○
サ変名詞	開場	開場	-	-	-	-	○
サ変名詞	確認	確認	-	○	○	○	○

品詞	見出し語	正規表現	SG	SH	M	L	AL
サ変名詞	確保	確保	-	-	-	-	○
サ変名詞	観光	観光	-	○	○	○	○
サ変名詞	帰国	帰国	-	-	-	-	○
サ変名詞	希望	希望	-	○	○	○	○
サ変名詞	キャンセル	キャンセル	○	-	○	○	○
サ変名詞	急行	急行	-	-	-	-	○
サ変名詞	サービス	サービス	-	○	○	○	○
サ変名詞	参加	参加	-	-	-	-	○
サ変名詞	質問	質問	-	-	-	○	-
サ変名詞	支払い	支払い	-	○	○	○	○
サ変名詞	宿泊	宿泊	○	○	○	○	○
サ変名詞	出発	出発	-	○	○	○	○
サ変名詞	使用	使用	-	○	○	○	○
サ変名詞	承知	承知	-	-	-	○	-
サ変名詞	食事	食事	○	-	○	○	○
サ変名詞	請求	請求	-	-	-	-	○
サ変名詞	説明	説明	-	-	-	-	○
サ変名詞	相談	相談	-	-	-	-	○
サ変名詞	滞在	滞在	○	○	○	○	○
サ変名詞	担当	担当	-	-	-	○	○
サ変名詞	着用	着用	-	-	-	-	○
サ変名詞	チェックアウト	チェックアウト	-	-	-	-	○
サ変名詞	チェックイン	チェックイン	-	-	-	○	○
サ変名詞	注文	注文	-	-	-	-	○
サ変名詞	ちょうだい	頂戴	-	○	○	○	○
普通名詞	都合	都合	○	-	○	○	○
サ変名詞	提示	提示	-	-	-	○	○
サ変名詞	手続き	手続き	-	-	-	-	○
サ変名詞	手配	手配	-	-	-	-	○
サ変名詞	転勤	転勤	-	-	-	-	○
サ変名詞	電話	電話	○	○	○	○	○
サ変名詞	到着	到着	○	○	○	○	○
サ変名詞	発車	発車	-	-	-	-	○
サ変名詞	プレゼント	プレゼント	-	-	-	-	○
サ変名詞	平均	平均	-	-	-	-	○
サ変名詞	変更	変更	-	○	○	○	○
サ変名詞	補助	補助	-	○	○	○	-
サ変名詞	無理	無理	-	-	-	-	○
サ変名詞	用意	用意	-	○	○	○	○
サ変名詞	予算	予算	-	-	-	-	○
サ変名詞	予定	予定	-	○	○	○	○
サ変名詞	予約	予約	○	○	○	○	○
サ変名詞	利用	利用	-	○	○	○	○
サ変名詞	旅行	旅行	-	-	-	-	○
サ変名詞	料理	料理	-	○	○	○	○
サ変名詞	連絡	連絡	-	-	-	-	○
サ変名詞	レンタル	レンタル	-	-	-	-	○
サ変名詞	平均	平均	-	-	-	-	○

品詞	見出し語	正規表現	SG	SH	M	L	AL
形容名詞	同じ	同じ	-	○	○	○	○
形容名詞	窮屈	窮屈	-	-	-	-	○
形容名詞	結構	結構	-	-	-	○	○
形容名詞	さよう	さよう	-	-	-	-	○
形容名詞	親切	親切	○	-	○	○	-
形容名詞	大丈夫	大丈夫	-	-	-	-	○
形容名詞	特別	特別	-	-	-	-	○
形容名詞	必要	必要	-	-	-	-	○
形容名詞	別	別	-	○	○	○	○
形容名詞	無理	無理	-	-	-	-	○
形容名詞	有効	有効	-	-	-	-	○
数詞	一	一	○	○	○	○	○
数詞	二	二	○	○	○	○	○
数詞	三	三	○	○	○	○	○
数詞	四	四	○	○	○	○	○
数詞	五	五	○	○	○	○	○
数詞	六	六	○	○	○	○	○
数詞	七	七	○	○	○	○	○
数詞	八	八	○	○	○	○	○
数詞	九	九	○	○	○	○	○
数詞	零	零	○	○	○	○	○
数詞	○	○	○	○	○	○	○
日時	一月	一月	○	○	○	○	○
日時	二月	二月	○	○	○	○	○
日時	三月	三月	○	○	○	○	○
日時	四月	四月	○	○	○	○	○
日時	五月	五月	○	○	○	○	○
日時	六月	六月	○	○	○	○	○
日時	七月	七月	○	○	○	○	○
日時	八月	八月	○	○	○	○	○
日時	九月	九月	○	○	○	○	○
日時	十月	十月	○	○	○	○	○
日時	十一月	十一月	○	○	○	○	○
日時	十二月	十二月	○	○	○	○	○
日時	何月	何月	-	-	-	○	-
日時	一日	一日	○	○	○	○	○
日時	二日	二日	○	○	○	○	○
日時	三日	三日	○	○	○	○	○
日時	四日	四日	○	○	○	○	○
日時	五日	五日	○	○	○	○	○
日時	六日	六日	○	○	○	○	○
日時	七日	七日	○	○	○	○	○
日時	八日	八日	○	○	○	○	○
日時	九日	九日	○	○	○	○	○
日時	十日	十日	○	○	○	○	○
日時	十一日	十一日	○	○	○	○	○
日時	十二日	十二日	○	○	○	○	○
日時	十三日	十三日	○	○	○	○	○

品詞	見出し語	正規表現	SG	SH	M	L	AL
日時	十四日	十四日	○	○	○	○	○
日時	十五日	十五日	○	○	○	○	○
日時	十六日	十六日	○	○	○	○	○
日時	十七日	十七日	○	○	○	○	○
日時	十八日	十八日	○	○	○	○	○
日時	十九日	十九日	○	○	○	○	○
日時	二十日	二十日	○	○	○	○	○
日時	二十日	二十日	○	○	○	○	○
日時	二十一日	二十一日	○	○	○	○	○
日時	二十二日	二十二日	○	○	○	○	○
日時	二十三日	二十三日	○	○	○	○	○
日時	二十四日	二十四日	○	○	○	○	○
日時	二十五日	二十五日	○	○	○	○	○
日時	二十六日	二十六日	○	○	○	○	○
日時	二十七日	二十七日	○	○	○	○	○
日時	二十七日	二十七日	○	○	○	○	○
日時	二十八日	二十八日	○	○	○	○	○
日時	二十九日	二十九日	○	○	○	○	○
日時	三十日	三十日	○	○	○	○	○
日時	三十一日	三十一日	○	○	○	○	○
日時	何日	何日	-	-	-	○	-
日時	月曜日	月曜日	○	○	○	○	○
日時	火曜日	火曜日	○	○	○	○	○
日時	水曜日	水曜日	○	○	○	○	○
日時	木曜日	木曜日	○	○	○	○	○
日時	金曜日	金曜日	○	○	○	○	○
日時	土曜日	土曜日	○	○	○	○	○
日時	日曜日	日曜日	○	○	○	○	○
日時	何曜日	何曜日	-	-	-	○	-
日時	一時	一時	○	○	○	○	○
日時	二時	二時	○	○	○	○	○
日時	三時	三時	○	○	○	○	○
日時	四時	四時	○	○	○	○	○
日時	五時	五時	○	○	○	○	○
日時	六時	六時	○	○	○	○	○
日時	七時	七時	○	○	○	○	○
日時	八時	八時	○	○	○	○	○
日時	九時	九時	○	○	○	○	○
日時	十時	十時	○	○	○	○	○
日時	十一時	十一時	○	○	○	○	○
日時	十二時	十二時	○	○	○	○	○
日時	十三時	十三時	○	○	○	○	○
日時	十四時	十四時	○	○	○	○	○
日時	十五時	十五時	○	○	○	○	○
日時	十六時	十六時	○	○	○	○	○
日時	十七時	十七時	○	○	○	○	○
日時	十八時	十八時	○	○	○	○	○
日時	十九時	十九時	○	○	○	○	○

品詞	見出し語	正規表現	SG	SH	M	L	AL
日時	二十時	二十時	○	○	○	○	○
日時	二十一時	二十一時	○	○	○	○	○
日時	二十二時	二十二時	○	○	○	○	○
日時	二十三時	二十三時	○	○	○	○	○
日時	二十四時	二十四時	○	○	○	○	○
日時	何時	何時	-	-	-	○	-
日時	一分	一分	○	○	○	○	○
日時	二分	二分	○	○	○	○	○
日時	三分	三分	○	○	○	○	○
日時	四分	四分	○	○	○	○	○
日時	五分	五分	○	○	○	○	○
日時	六分	六分	○	○	○	○	○
日時	七分	七分	○	○	○	○	○
日時	八分	八分	○	○	○	○	○
日時	八分	八分	○	○	○	○	○
日時	九分	九分	○	○	○	○	○
日時	十分	十分	○	○	○	○	○
日時	十一分	十一分	○	○	○	○	○
日時	十二分	十二分	○	○	○	○	○
日時	十三分	十三分	○	○	○	○	○
日時	十四分	十四分	○	○	○	○	○
日時	十五分	十五分	○	○	○	○	○
日時	十六分	十六分	○	○	○	○	○
日時	十七分	十七分	○	○	○	○	○
日時	十八分	十八分	○	○	○	○	○
日時	十九分	十九分	○	○	○	○	○
日時	二十分	二十分	○	○	○	○	○
日時	二十一分	二十一分	○	○	○	○	○
日時	二十二分	二十二分	○	○	○	○	○
日時	二十三分	二十三分	○	○	○	○	○
日時	二十四分	二十四分	○	○	○	○	○
日時	二十五分	二十五分	○	○	○	○	○
日時	二十六分	二十六分	○	○	○	○	○
日時	二十七分	二十七分	○	○	○	○	○
日時	二十八分	二十八分	○	○	○	○	○
日時	二十九分	二十九分	○	○	○	○	○
日時	三十分	三十分	○	○	○	○	○
日時	半	半	○	○	○	○	○
日時	三十一分	三十一分	○	○	○	○	○
日時	三十二分	三十二分	○	○	○	○	○
日時	三十三分	三十三分	○	○	○	○	○
日時	三十四分	三十四分	○	○	○	○	○
日時	三十五分	三十五分	○	○	○	○	○
日時	三十六分	三十六分	○	○	○	○	○
日時	三十七分	三十七分	○	○	○	○	○
日時	三十八分	三十八分	○	○	○	○	○
日時	三十九分	三十九分	○	○	○	○	○
日時	四十分	四十分	○	○	○	○	○

品詞	見出し語	正規表現	SG	SH	M	L	AL
日時	四十一分	四十一分	○	○	○	○	○
日時	四十二分	四十二分	○	○	○	○	○
日時	四十三分	四十三分	○	○	○	○	○
日時	四十四分	四十四分	○	○	○	○	○
日時	四十五分	四十五分	○	○	○	○	○
日時	四十六分	四十六分	○	○	○	○	○
日時	四十七分	四十七分	○	○	○	○	○
日時	四十八分	四十八分	○	○	○	○	○
日時	四十九分	四十九分	○	○	○	○	○
日時	五十分	五十分	○	○	○	○	○
日時	五十一分	五十一分	○	○	○	○	○
日時	五十二分	五十二分	○	○	○	○	○
日時	五十三分	五十三分	○	○	○	○	○
日時	五十四分	五十四分	○	○	○	○	○
日時	五十五分	五十五分	○	○	○	○	○
日時	五十六分	五十六分	○	○	○	○	○
日時	五十七分	五十七分	○	○	○	○	○
日時	五十八分	五十八分	○	○	○	○	○
日時	五十九分	五十九分	○	○	○	○	○
日時	何分	何分	-	-	-	○	-
連体詞	この	この	-	-	-	○	○
連体詞	そういった	そういった	-	-	-	-	○
連体詞	その	その	-	-	-	○	○
連体詞	当	当	-	○	○	○	○
連体詞	どうい	どうい	-	-	-	-	○
連体詞	どういった	どういった	-	-	-	-	○
連体詞	どのような	どのような	-	-	-	-	○
本動詞	空	開	-	-	-	-	○
本動詞	歩	歩	-	-	-	-	○
本動詞	いただく	頂	-	○	○	○	-
本動詞	頂	頂	-	-	-	○	○
本動詞	行	行	-	-	-	-	○
本動詞	頂	頂	-	-	-	○	○
本動詞	書	書	-	-	-	-	○
本動詞	聞	聞	-	-	-	○	○
本動詞	付	付	○	-	○	○	○
本動詞	つ	着	-	-	-	○	-
本動詞	着	着	-	-	-	-	○
本動詞	開	開	-	-	-	-	○
本動詞	急	急	-	-	-	-	○
本動詞	いた	致	-	-	-	-	○
本動詞	繰り返	繰り返	-	○	○	○	-
本動詞	探	探	-	-	-	○	○
本動詞	出	出	-	-	-	-	○
本動詞	引き落と	引き落と	-	-	-	○	-
本動詞	無く	無く	-	-	-	-	○
本動詞	待	待	-	○	○	○	○
本動詞	申	申	-	○	○	○	○

品詞	見出し語	正規表現	SG	SH	M	L	AL
本動詞	持	持	-	-	-	-	○
本動詞	選	選	-	-	-	-	○
本動詞	楽し	楽し	-	-	-	-	○
本動詞	望	望	-	-	-	-	○
本動詞	含	含	-	-	-	-	○
本動詞	あ	有	-	-	-	-	○
本動詞	有	有	-	-	-	○	-
本動詞	承	承	-	○	○	○	○
本動詞	移	移	-	-	-	-	○
本動詞	掛か	掛か	-	-	-	-	○
本動詞	変わ	変わ	-	○	○	○	○
本動詞	迫	迫	-	-	-	-	○
本動詞	助か	助か	-	-	-	-	○
本動詞	作	作	-	-	-	-	○
本動詞	取	取	-	○	○	○	○
本動詞	泊ま	泊ま	○	○	○	○	○
本動詞	な	な	○	○	○	○	○
本動詞	無くな	無くな	-	-	-	-	○
本動詞	練	練	-	-	-	-	○
本動詞	載	載	-	-	-	-	○
本動詞	乗	乗	-	-	-	-	○
本動詞	残	残	-	-	-	-	○
本動詞	入	入	-	○	○	○	○
本動詞	ふさが	ふさが	-	-	-	-	○
本動詞	参	参	-	○	○	○	○
本動詞	見つか	見つか	-	-	-	-	○
本動詞	召し上が	召し上が	-	-	-	-	○
本動詞	や	や	○	-	○	○	○
本動詞	わか	分か	-	○	○	○	-
本動詞	分か	分か	○	○	○	○	○
本動詞	いらっしゃ	いらっしゃ	-	-	-	-	○
本動詞	おっしゃ	おっしゃ	-	-	-	-	○
本動詞	なさ	なさ	-	○	○	○	○
本動詞	ございま	ございま	-	○	○	○	○
本動詞	い	言	○	-	○	○	○
本動詞	言	言	○	-	○	○	-
本動詞	伺	伺	-	○	○	○	○
本動詞	思	思	○	-	○	○	○
本動詞	買	買	-	-	-	-	○
本動詞	支払	支払	-	-	-	○	-
本動詞	違	違	-	-	-	-	○
本動詞	使	使	-	-	-	-	○
本動詞	願	願	○	○	○	○	○
本動詞	払	払	○	-	○	○	-
本動詞	開け	明け	-	-	-	-	○
本動詞	い	居	-	-	-	-	○
本動詞	入れ	入れ	-	-	-	○	○
本動詞	受け	受け	-	-	-	-	○

品詞	見出し語	正規表現	SG	SH	M	L	AL
本動詞	押さえ	押さえ	-	-	-	-	○
本動詞	教え	教え	-	○	○	○	○
本動詞	覚え	覚え	-	-	-	-	○
本動詞	変え	変え	-	-	-	-	○
本動詞	かけ	掛け	-	-	-	-	○
本動詞	考え	考え	-	-	-	○	○
本動詞	借り	借り	-	-	-	-	○
本動詞	聞かせ	聞かせ	○	-	○	○	○
本動詞	知らせ	知らせ	-	-	-	-	○
本動詞	調べ	調べ	-	○	○	○	○
本動詞	存じ	存じ	-	-	-	-	○
本動詞	食べ	食べ	-	-	-	-	○
本動詞	足り	足り	-	-	-	-	○
本動詞	伝え	伝え	-	-	-	-	○
本動詞	出	出	-	-	-	○	○
本動詞	取り替え	取り替え	-	-	-	-	○
本動詞	待たせ	待たせ	-	○	○	○	○
本動詞	見	見	-	-	-	-	○
本動詞	診	見	-	-	-	-	○
本動詞	見つけ	見つけ	-	-	-	-	○
本動詞	頂け	頂け	-	-	-	-	○
本動詞	伺え	伺え	-	-	-	-	○
本動詞	使え	使え	○	-	○	○	○
本動詞	でき	でき	-	○	○	○	○
本動詞	泊まれ	泊まれ	○	-	○	○	○
本動詞	さ	する	○	○	○	○	○
本動詞	し	する	○	○	○	○	○
本動詞	する	する	○	○	○	○	○
本動詞	する	する	○	○	○	○	○
本動詞	すれ	する	○	○	○	○	○
本動詞	さ	する	○	○	○	○	○
本動詞	し	する	○	○	○	○	○
本動詞	する	する	○	○	○	○	○
本動詞	する	する	○	○	○	○	○
本動詞	すれ	する	○	○	○	○	○
形容詞	遅	遅	○	-	○	○	○
形容詞	おもしろ	おもしろ	-	-	-	-	○
形容詞	詳し	詳し	-	-	-	-	○
形容詞	しかた無	しかたな	-	-	-	-	○
形容詞	しょうがな	しょうがな	-	-	-	○	-
形容詞	高	高	-	-	-	○	○
形容詞	無	無	-	-	-	○	○
形容詞	早	早	-	-	-	○	-
形容詞	広	広	-	○	○	○	-
形容詞	申し訳な	申し訳な	-	-	-	-	○
形容詞	安	安	-	-	-	○	○
形容詞	よ	良	-	-	-	-	○
形容詞	よろし	よろし	-	○	○	○	○

品詞	見出し語	正規表現	SG	SH	M	L	AL
形容詞	悪	悪	-	-	-	-	○
形容詞	い	良	-	-	-	○	○
形容詞	よろしゅう	よろしゅう	-	-	-	-	○
副詞	あいにく	あいにく	-	○	○	○	○
副詞	あいにくですが	あいにくですが	-	-	-	-	○
副詞	あいにくですけれども	あいにくですけれども	-	-	-	-	○
副詞	あいにくでございますが	あいにくでございますが	-	○	○	○	-
副詞	あと	あと	-	-	-	○	-
副詞	改めて	改めて	-	-	-	-	○
副詞	いかが	いかが	-	○	○	○	○
副詞	いつ	いつ	-	○	○	○	○
副詞	いつでも	いつでも	-	-	-	-	○
副詞	いろいろ	いろいろ	-	-	-	○	○
副詞	恐れ入りますが	恐れ入りますが	-	○	○	○	○
副詞	ご遠慮なく	ご遠慮なく	-	-	-	○	-
副詞	早速	早速	-	-	-	-	○
副詞	しばらく	しばらく	-	○	○	○	○
副詞	少々	少々	-	○	○	○	○
副詞	すみませんが	すみませんが	-	-	-	-	○
副詞	すぐに	すぐに	-	-	-	-	○
副詞	少し	少し	-	-	-	-	○
副詞	ずっと	ずっと	-	-	-	-	○
副詞	既に	既に	-	-	-	-	○
副詞	すべて	すべて	-	-	-	-	○
副詞	すみませんが	すみませんが	-	-	-	-	○
副詞	そう	そう	○	○	○	○	○
副詞	そのほか	その外	-	-	-	-	○
副詞	そのように	そのように	-	-	-	-	○
副詞	それぞれ	それぞれ	○	-	○	○	○
副詞	だいたい	だいたい	-	-	-	○	○
副詞	大変	大変	-	-	-	○	○
副詞	確か	確か	-	-	-	-	○
副詞	確かに	確かに	-	-	-	-	○
副詞	ただいま	ただいま	-	-	-	○	○
副詞	たぶん	たぶん	○	-	○	○	○
副詞	ちょうど	ちょうど	-	-	-	○	○
副詞	ちょっと	ちょっと	○	-	○	○	○
副詞	どう	どう	-	-	-	○	○
副詞	どうぞ	どうぞ	-	-	-	-	○
副詞	どうも	どうも	-	-	-	-	○
副詞	どうやって	どうやって	○	-	○	○	-
副詞	どのように	どのように	-	-	-	-	○
副詞	共に	ともに	-	○	○	○	○
副詞	とりあえず	とりあえず	-	-	-	-	○
副詞	念のため	念のため	○	-	○	○	-
副詞	念のために	念のために	-	-	-	-	○
副詞	後ほど	後ほど	-	-	-	-	○
副詞	別途	別途	-	○	○	○	○

品詞	見出し語	正規表現	SG	SH	M	L	AL
副詞	まず	まず	-	-	-	-	○
副詞	まだ	まだ	-	-	-	-	○
副詞	もう	もう	-	-	-	-	○
副詞	申し訳ありませんが	申し訳ありませんが	-	-	-	○	-
副詞	申し訳ございませんが	申し訳ございませんが	-	-	-	○	○
副詞	もし	もし	-	-	-	○	○
副詞	もっと	もっと	-	-	-	○	-
副詞	もちろん	もちろん	-	○	○	○	○
副詞	よろしく	よろしく	○	-	○	○	○
助動詞	せ	せ	-	○	○	○	○
助動詞	れ	れ	-	○	○	○	○
助動詞	てい	てい	○	○	○	○	○
助動詞	でい	でい	○	○	○	○	○
助動詞	て	て	○	-	○	○	○
助動詞	てあ	てあ	-	-	-	-	○
助動詞	てお	てお	○	○	○	○	○
助動詞	ておりません	ておりません	-	○	○	○	○
助動詞	ていただけ	ていただけ	○	-	○	○	○
助動詞	てみ	てみ	-	-	-	-	○
助動詞	てもらえ	てもらえ	-	-	-	-	○
助動詞	ていただ	ていただ	○	○	○	○	○
助動詞	てお	てお	-	-	-	-	○
助動詞	と	と	○	-	○	○	-
助動詞	てください	てください	○	○	○	○	○
助動詞	ていらっしゃ	ていらっしゃ	-	-	-	-	○
助動詞	てまい	てまい	-	○	○	○	-
助動詞	て参	てまい	-	-	-	-	○
助動詞	てらっしゃ	てらっしゃ	-	-	-	-	○
助動詞	てしま	てしま	○	-	○	○	○
助動詞	てもら	てもら	-	-	-	-	○
助動詞	て欲し	てほし	-	-	-	-	○
助動詞	で欲し	でほし	-	-	-	-	○
助動詞	てよろし	てよろし	-	-	-	-	○
助動詞	たらよろし	たらよろし	-	-	-	-	○
助動詞	て来	てくる	-	-	-	-	○
助動詞	て来	てくる	-	-	-	-	○
助動詞	て来	てくる	-	-	-	-	○
助動詞	て来る	てくる	-	-	-	-	○
助動詞	て来る	てくる	-	-	-	-	○
助動詞	て来れ	てくる	-	-	-	-	○
助動詞	て来い	てくる	-	-	-	-	○
助動詞	た	た	○	○	○	○	○
助動詞	な	な	○	○	○	○	○
助動詞	ないといけな	ないといけな	-	-	-	-	○
助動詞	ばい	ば良	○	-	○	○	-
助動詞	ばよろし	ばよろし	-	-	-	-	○
助動詞	た	た	○	○	○	○	○
助動詞	たら	たら	-	○	○	○	-

品詞	見出し語	正規表現	SG	SH	M	L	AL
助動詞	そう	そう	○	-	○	○	○
助動詞	ばかり	ばかり	-	-	-	-	○
助動詞	はず	はず	-	-	-	-	○
助動詞	みたい	みたい	-	-	-	-	○
助動詞	よう	よう	-	-	-	○	○
助動詞	そうで	そうで	○	-	○	○	○
助動詞	で	だ	○	○	○	○	○
助動詞	に	だ	○	○	○	○	○
助動詞	だっ	だ	○	○	○	○	○
助動詞	だ	だ	○	○	○	○	○
助動詞	な	だ	○	○	○	○	○
助動詞	なら	だ	○	○	○	○	○
助動詞	で	で	○	○	○	○	○
補助動詞	ございま	ございま	-	○	○	○	○
補助動詞	いらっしゃ	いらっしゃ	-	○	○	○	○
助動詞	ま	ま	○	○	○	○	○
助動詞	ん	ん	-	○	○	○	○
助動詞	う	う	○	○	○	○	○
助動詞	よう	よう	○	○	○	○	○
補助動詞	し	する	○	○	○	○	○
補助動詞	さ	する	○	○	○	○	○
補助動詞	する	する	○	○	○	○	○
補助動詞	しろ	する	○	○	○	○	○
補助動詞	くださ	くださ	-	○	○	○	○
補助動詞	にな	にな	-	○	○	○	○
補助動詞	いた	いた	-	○	○	○	○
補助動詞	いただ	いただ	-	○	○	○	○
補助動詞	いただけ	いただけ	-	○	○	○	○
補助動詞	でき	でき	○	○	○	○	○
補助動詞	願え	願え	-	○	○	○	○
補助動詞	申し上げ	申し上げ	-	-	-	○	○
終助詞	か	か	○	○	○	○	○
終助詞	っけ	っけ	○	-	○	○	-
終助詞	な	な	-	-	-	-	○
終助詞	ね	ね	○	○	○	○	○
終助詞	ねえ	ねえ	-	-	-	-	○
終助詞	よ	よ	-	-	-	-	○
接続助詞	が	が	○	○	○	○	○
接続助詞	けど	けど	-	-	-	○	○
接続助詞	けども	けども	-	-	-	-	○
接続助詞	けれども	けれども	○	-	○	○	○
接続助詞	ので	ので	-	-	-	○	○
接続助詞	もんですから	もんですから	-	-	-	○	-
格助詞	が	が	○	○	○	○	○
格助詞	に	に	○	○	○	○	○
格助詞	で	で	○	○	○	○	○
格助詞	と	と	○	○	○	○	○
格助詞	から	から	○	○	○	○	○

品詞	見出し語	正規表現	SG	SH	M	L	AL
格助詞	より	より	○	○	○	○	○
格助詞	まで	まで	○	○	○	○	○
格助詞	といたしまして	といたしまして	-	-	-	-	○
格助詞	として	として	-	-	-	-	○
格助詞	に関しまして	に関しまして	-	-	-	-	○
格助詞	について	について	-	-	-	○	○
格助詞	にて	にて	-	-	-	-	○
格助詞	によって	によって	-	○	○	○	-
格助詞	の際に	の際に	-	-	-	-	○
格助詞	のために	のために	-	-	-	-	○
格助詞	を	を	○	○	○	○	○
格助詞	へ	へ	○	○	○	○	○
係助詞	は	は	○	○	○	○	○
係助詞	も	も	○	○	○	○	○
副助詞	か	か	○	-	○	○	○
副助詞	くらい	くらい	○	-	○	○	○
副助詞	ぐらい	くらい	○	-	○	○	○
副助詞	しか	しか	○	-	○	○	○
副助詞	だけ	だけ	○	-	○	○	○
副助詞	でも	でも	○	-	○	○	○
副助詞	など	など	○	-	○	○	○
副助詞	ほど	ほど	○	-	○	○	○
連体助詞	の	の	○	○	○	○	○
連体助詞	という	という	○	○	○	○	○
並立助詞	か	か	○	○	○	○	○
並立助詞	と	と	○	○	○	○	○
並立助詞	とか	とか	○	-	○	○	○
並立助詞	や	や	-	○	○	○	-
接続助詞	が	が	○	○	○	○	○
接続助詞	から	から	-	-	-	-	○
接続助詞	けど	けど	-	-	-	-	○
接続助詞	けども	けども	-	-	-	-	○
接続助詞	けれど	けれど	-	-	-	-	○
接続助詞	けれども	けれども	-	-	-	○	○
接続助詞	次第	しだい	-	-	-	-	○
接続助詞	たら	たら	-	-	-	-	○
接続助詞	て	て	○	○	○	○	○
接続助詞	と	と	-	○	○	○	○
接続助詞	ので	ので	○	○	○	○	○
接続助詞	んで	ので	○	-	○	○	○
接続助詞	ば	ば	-	○	○	○	○
引用助詞	か	か	-	-	-	-	○
引用助詞	かと	かと	-	-	-	-	○
引用助詞	と	と	○	○	○	○	○
引用助詞	のか	のか	-	-	-	-	○
準体助詞	の	の	○	○	○	○	○
準体助詞	ん	の	○	○	○	○	○
接頭辞	お	お	○	○	○	○	○

品詞	見出し語	正規表現	SG	SH	M	L	AL
接頭辞	ご	御	○	○	○	○	○
接頭辞	御	御	-	○	○	○	-
接頭辞	当	当	-	○	○	○	○
接尾辞	行き	行き	-	-	-	-	○
接尾辞	階	階	-	-	-	-	○
接尾辞	係	係	-	○	○	○	○
接尾辞	間	間	-	-	-	○	○
接尾辞	後	後	-	-	-	-	○
接尾辞	号	号	-	○	○	○	○
接尾辞	頃	ころ	○	-	○	○	○
接尾辞	ころ	ころ	-	-	-	○	○
接尾辞	さ	さ	-	○	○	○	-
接尾辞	時間	時間	-	○	○	○	○
接尾辞	式	式	-	-	-	-	○
接尾辞	室	室	-	○	○	○	○
接尾辞	食	食	-	○	○	○	○
接尾辞	前後	前後	-	-	-	○	-
接頭辞	だいたい	大体	-	-	-	-	○
接尾辞	着	着	-	-	-	-	○
接尾辞	中	中	-	-	-	-	○
接尾辞	長	長	-	-	-	-	○
接尾辞	つ	つ	-	-	-	-	○
接尾辞	付き	付き	○	○	○	○	-
接尾辞	付き	付き	○	○	○	○	○
接尾辞	内	内	-	-	-	-	○
接尾辞	日	日	-	○	○	○	○
接尾辞	人	人	○	○	○	○	○
接尾辞	パーセント	パーセント	-	-	-	-	○
接尾辞	泊	泊	○	○	○	○	○
接尾辞	発	発	-	-	-	-	○
接尾辞	番	番	-	-	-	○	○
接尾辞	便	便	-	-	-	-	○
接尾辞	分	分	-	○	○	○	○
接尾辞	枚	枚	-	-	-	-	○
接尾辞	前	前	-	-	-	-	○
接尾辞	名	名	-	○	○	○	○
接尾辞	料	料	-	○	○	○	○
接尾辞	十	十	○	○	○	○	○
接尾辞	十	十	○	○	○	○	○
接尾辞	百	百	○	○	○	○	○
接尾辞	百	百	○	○	○	○	○
接尾辞	千	千	○	○	○	○	○
接尾辞	千	千	○	○	○	○	○
接尾辞	万	万	○	○	○	○	○
接尾辞	.	.	○	○	○	○	○
接尾辞	円	円	○	○	○	○	○
接尾辞	ドル	ドル	○	○	○	○	○

品詞	見出し語	正規表現	SG	SH	M	L	AL
接尾辞	様	様	-	○	○	○	○
接尾辞	さん	さん	-	-	-	○	○
接尾辞	ども	ども	-	-	-	-	○
接尾辞	年	年	○	○	○	○	○
記号	.	.	○	○	○	○	○

D.2 活用語尾一覧

五段活用動詞	SG	SH	M	L	AL
歩く, 行く					
<vinfl-5-ka> <--> (k a) ("か")	○	○	○	○	○
<vinfl-5-ki> <--> (k i) ("き")	○	○	○	○	○
<vinfl-5-ku> <--> (k u) ("く")	○	○	○	○	○
<vinfl-5-ke> <--> (k e) ("け")	○	○	○	○	○
<vinfl-5-ko> <--> (k o) ("こ")	○	○	○	○	○
乗り継ぐ					
<vinfl-5-ga> <--> (g a) ("が")	○	○	○	○	○
<vinfl-5-gi> <--> (g i) ("ぎ")	○	○	○	○	○
<vinfl-5-gu> <--> (g u) ("ぐ")	○	○	○	○	○
<vinfl-5-ge> <--> (g e) ("げ")	○	○	○	○	○
<vinfl-5-go> <--> (g o) ("ご")	○	○	○	○	○
話す					
<vinfl-5-sa> <--> (s a) ("さ")	○	○	○	○	○
<vinfl-5-si> <--> (sh i) ("し")	○	○	○	○	○
<vinfl-5-su> <--> (s u) ("す")	○	○	○	○	○
<vinfl-5-se> <--> (s e) ("せ")	○	○	○	○	○
<vinfl-5-so> <--> (s o) ("そ")	○	○	○	○	○
待つ					
<vinfl-5-ta> <--> (t a) ("た")	○	○	○	○	○
<vinfl-5-ti> <--> (ch i) ("ち")	○	○	○	○	○
<vinfl-5-tu> <--> (t s u) ("つ")	○	○	○	○	○
<vinfl-5-te> <--> (t e) ("て")	○	○	○	○	○
<vinfl-5-to> <--> (t o) ("と")	○	○	○	○	○
遊ぶ					
<vinfl-5-ba> <--> (b a) ("ば")	○	○	○	○	○
<vinfl-5-bi> <--> (b i) ("び")	○	○	○	○	○
<vinfl-5-bu> <--> (b u) ("ぶ")	○	○	○	○	○
<vinfl-5-be> <--> (b e) ("べ")	○	○	○	○	○
<vinfl-5-bo> <--> (b o) ("ぼ")	○	○	○	○	○
申し込む					
<vinfl-5-ma> <--> (m a) ("ま")	○	○	○	○	○
<vinfl-5-mi> <--> (m i) ("み")	○	○	○	○	○
<vinfl-5-mu> <--> (m u) ("む")	○	○	○	○	○
<vinfl-5-me> <--> (m e) ("め")	○	○	○	○	○
<vinfl-5-mo> <--> (m o) ("も")	○	○	○	○	○
言う					
<vinfl-5-wa> <--> (w a) ("わ")	○	○	○	○	○
<vinfl-5-wi> <--> (i) ("い")	○	○	○	○	○
<vinfl-5-wu> <--> (u) ("う")	○	○	○	○	○
<vinfl-5-we> <--> (e) ("え")	○	○	○	○	○
<vinfl-5-wo> <--> (o) ("お")	○	○	○	○	○

五段活用動詞	SG	SH	M	L	AL
かかる					
(<vinfl-5-ra> <--> (r a) ("ら"))	○	○	○	○	○
(<vinfl-5-ri> <--> (r i) ("り"))	○	○	○	○	○
(<vinfl-5-ru> <--> (r u) ("る"))	○	○	○	○	○
(<vinfl-5-re> <--> (r e) ("れ"))	○	○	○	○	○
(<vinfl-5-ro> <--> (r o) ("ろ"))	○	○	○	○	○
音便					
(<vinfl-5-i> <--> (i) ("い"))	○	○	○	○	○
(<vinfl-5-n> <--> (=) ("ん"))	○	○	○	○	○
(<vinfl-5-q> <--> (q) ("っ"))	○	○	○	○	○

一段活用動詞	SG	SH	M	L	AL
見る, 入れる					
(<vinfl-1-yo> <--> (y o) ("よ"))	○	○	○	○	○
(<vinfl-1-ru> <--> (r u) ("る"))	○	○	○	○	○
(<vinfl-1-re> <--> (r e) ("れ"))	○	○	○	○	○
(<vinfl-1-ro> <--> (r o) ("ろ"))	○	○	○	○	○

特殊活用	SG	SH	M	L	AL
ございます					
(<vinfl-spe-se> <--> (s e) ("せ"))	○	○	○	○	○
(<vinfl-spe-sho> <--> (sh o) ("しょ"))	○	○	○	○	○
(<vinfl-spe-shi> <--> (sh i) ("し"))	○	○	○	○	○
(<vinfl-spe-su> <--> (s u) ("す"))	○	○	○	○	○
(<vinfl-spe-sure> <--> (s u r e) ("すれ"))	○	○	○	○	○

形容詞	SG	SH	M	L	AL
詳しい					
(<vinfl-adj-karo> <--> (k a r o) ("かる"))	○	○	○	○	○
(<vinfl-adj-kaq> <--> (k a q) ("かつ"))	○	○	○	○	○
(<vinfl-adj-ku> <--> (k u) ("く"))	○	○	○	○	○
(<vinfl-adj-u> <--> (u) ("う"))	○	○	○	○	○
(<vinfl-adj-i> <--> (i) ("い"))	○	○	○	○	○
(<vinfl-adj-kere> <--> (k e r e) ("けれ"))	○	○	○	○	○

助動詞	SG	SH	M	L	AL
そうだ					
(<vinfl-da-de> <--> (d e) ("で"))	○	○	○	○	○
(<vinfl-da-daq> <--> (d a q) ("だっ"))	○	○	○	○	○
(<vinfl-da-da> <--> (d a) ("だ"))	○	○	○	○	○
(<vinfl-da-na> <--> (n a) ("な"))	○	○	○	○	○